



WMF 1500 S+

取扱説明書

日本語

弊社のWMFコーヒーマシンをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

WMF 1500 S+はエスプレッソ、カフェレム、カプチーノ、カフェテ、ラマッキアート、ミルクフォーム、熱湯を供給する全自動コーヒーマシンです。「淹れたてフィルターコーヒー」の拡張オプションを使用して、WMF 1500 S+では挽きたてのフィルターコーヒーを淹れることができます。

オプションのパウダーホッパーを使用すると、WMF 1500 S+ではミルクもしくはミルクフォーム入りのホットチョコレートを淹れることができます。

取扱説明書の指示に従ってください



- > 使用前に取扱説明書をお読みください。
- > 取扱説明書、特に安全上の注意事項と「安全性」の章の指示を遵守してください。
- > コーヒーマシンの警告注記に注意してください。
- > 取扱説明書はスタッフや全ユーザーがいつでも参照できるようにしてください。

注意

取扱説明書の記号とアイコンに従ってください
▷ 22ページ以降
安全性についての章を参照
▷ 7ページ以降

感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。

警告

安全性についての章を参照
▷ 7ページ以降

設置・使用条件

- メンテナンス規定や「テクニカルデータ」の章にある規定の遵守を怠った場合、損害が発生しても一切責任を負いかねます。
- > 取扱説明書の指示に従ってください。
- > 試運転調整、メンテナンス、修理に係る作業はすべて、正規交換部品を使用する条件でWMFサービス担当者によってのみ行われることが許可されています。

重要

テクニカルデータ
▷ 128ページ以降
メンテナンス
▷ 114ページ以降

1	安全性	7
1.1	一般的な安全上の注意事項	7
1.2	使用目的	14
1.3	設置・使用条件	17
2	序章	20
2.1	コーヒーマシンの各部名称	20
	供給可能表示	20
	用語集	23
3	操作	24
3.1	操作に関する安全上の注意事項	24
3.2	その他書類	25
3.3	コーヒーマシンのスイッチを入れる	26
3.4	ミルクまたはミルクフォーム(オフ ション)	26
3.4.1	ミルクを接続する	26
3.4.2	ミルク/ミルクフォームの供給	27
3.5	飲料供給	28
	飲料のキャンセル	28
3.6	淹れたてフィルター-コーヒ- FFC (オフ ション)	28
3.7	事前選択パッド (オフ ション)	29
3.8	オフ ションのフィルト	29
3.9	カップ サイズ 調整	29
3.10	熱湯供給	29
3.11	ベ-シックスチ-ム(オフ ション)	30
3.12	スチ-ムシ-ェットカップ ウォ-マー	32
3.13	コンビ 供給口の高さ調整	33
	自動高さ調整(オフ ション)	33
	カップ 検出(オフ ション)	33
3.14	コーヒ-豆ホッパ- /ハ-ウタ-ホッパ-	33
3.15	マニュアル投入口ロック可能	34
3.16	コーヒ-が受け	35
3.17	コーヒ-が落とし(オフ ション)	35
3.18	ドリッパ トレイ	36
3.18.1	ドリッパ トレーセンサ(オフ ション)	36
3.19	コーヒーマシンのスイッチを切る	37
4	ソフトウェア	38
4.1	概要	38
	供給可能	38
	機能ライン供給可能表示	38
	メインメニューの機能	39
	メニュー制御パッド	39
	パネル上の通知	39
4.2	供給可能表示	40
4.2.1	飲料ボタン	40
4.2.2	機能ライン	40
	スチ-ムシ-ェットパッド	40
	ホットリンスパッド	40
	栄養成分情報	40

目次

カップ サイズ 調整	41
S/M/Lパッド	41
パリスパッド - コーヒーの濃さ	41
ミルクシステム補充	41
2種類目のコーヒー(テカフェ)	42
スチームボタン	42
熱湯ボタン	42
4.3 カスタマーケア	43
システムクリーニング	43
ミキサーリンス	43
ミルクシステムクリーニング	43
徹底システムクリーニング (AutoClean)	44
FFC フィルター交換	44
フォーマーのリンス	44
グリーンロック	44
説明	45
ミルクシステム補充(ダイミックミルク)	45
設定	45
4.4 飲料	46
概要	46
カップ 容量、複数倍の抽出と供給オプション	47
レシクの変更	49
コーヒータイプを選択	52
テキスト、画像、カップ 高さ	52
ボタンの入れ替え	54
4.5 操作オプション	55
操作要素	55
ボタンレイアウト	58
ボタンのセレクション	58
カフェインフリー	59
飲料のセレクション	59
飲料のキャンセル	59
ロック	60
4.6 インフォメーション	61
前回の抽出	61
タイマー	61
サービス	61
カスタマーケア	61
浄水フィルターとカルキ除去	61
プロトコル	61
4.7 会計	62
カウンター	62
自動販売機	62
外部会計	62
無料設定	63
4.8 PIN権限	63
クリーニング PIN	64
設定PIN	64
会計PIN	64
新しいPINを入力	64

4.9 タイマ	65
時刻/日付	65
タイマ	65
タイマ 予定表とタイマの設定	65
タイマ 削除	66
タイマ 日別概要	66
タイマの入る時間を設定	66
AutoCleanクリーニング	67
ボタンのレイアウト	67
ICモト	68
サマタイム	68
時刻帯	68
4.10 システム	69
クーラ	69
品質チェック(タイミックス)	70
プログラステイスプレイ	70
ディスプレイと照明	70
バックの照度	71
ディスプレイ照度は自動的に減少	71
タッチキャリブレーション	71
バックの背景	71
飲料:文字+色	72
浄水フィルター	72
ICモト	73
温度	73
凍結防止/輸送準備	74
挽き目設定	74
ボーション	74
Bluetooth(オプション)	74
S-M-L機能	75
シロップ(オプション)	75
栄養成分情報	75
カップ検出(オプション)	76
デジタルリユージョン	79
4.11 言語	79
4.12 ICモト	80
ICモト表示	80
4.13 USB	81
レジをロードする	81
飲料のマークをロードする	81
レジの保存	81
レジをPDFファイルとしてセーブする	81
カウンターのイクスポート	81
HACCPイクスポート	82
データのバックアップ	82
データをロードする	82
言語をロードする	82
ファームウェアの更新	82

目次

5	加タマ-ケア	83
5.1	安全上の注意事項 加タマ-ケア	83
5.2	クリーニング 頻度の概要	85
5.3	クリーニング プログラム	86
5.3.1	システムクリーニング	86
5.3.2	ミルクシステムクリーニング	91
5.3.3	フォーマーのリス	92
5.3.4	フォーマーのリス(タ イミックミルク)	92
5.3.5	ミキサーリス	93
5.3.6	FFC フィルター交換	93
5.3.7	ミルクシステムの清掃の概要	94
5.4	クリーニング タブレットを補充する (AutoClean)	95
	コーヒークリーニング 顆粒	95
	ミルクシステム クリーナー	95
5.5	加タ除去	96
5.5.1	水タンクによるコーヒーマシンの加タ除去	98
5.5.2	水道水接続によるコーヒーマシンの加タ除去	99
5.6	手動クリーニング	101
5.6.1	操作パネルクリーニング (クリーンロック)	101
5.6.2	コーヒークラス受けのクリーニング (挽いた豆のスライト / オフ ション)	102
5.6.3	抽出装置のクリーニング	102
5.6.4	水タンクのクリーニング	105
5.6.5	ドリッパー トレーのクリーニング	105
5.6.6	ハウジング とカップ センサーをクリーニング	106
5.6.7	ミルクシステムをマニュアルでクリーニング	106
5.6.8	ミキサーのクリーニング	109
5.6.9	コーヒ-豆ホッパーのクリーニング	110
5.6.10	パウダーホッパーのクリーニング	111
6	HACCPクリーニング コンセプト	112
7	メンテナンスと加タ除去	114
7.1	メンテナンス	114
7.2	WMF サービス	115
8	メッセージ と注意事項	116
8.1	操作上の通知	116
8.2	エラー通知と不具合	117
8.3	エラー通知なしの不具合	120
9	安全性と保証	123
9.1	コーヒーマシンに対する危険	123
9.2	ガイドライン	125
9.3	管理責任者の義務	126
9.4	保証請求	127
	付録:テクニカルデータ	128
	コーヒーマシンのテクニカルデータ	128
	付録:アクセサリとスペアパーツ	132
	索引	135

1 安全性

誤った使用法

- 安全上の注意事項に従わないと、大怪我をすることがあります。
- > すべての安全上の注意事項に必ず従ってください。

 警告

1.1 一般的な安全上の注意事項

1-ガー-に対する危険性

WMFの製品は、安全性に最大限配慮していることが大きな特徴です。以下に記載されている項目が守られていない場合は安全装置の効果が保証されません：

-  > 使用前に取扱説明書をよくお読みください。
-  > 高温になったマシン部分には触れないでください。
-  > コーヒーマシンが正しく機能しないか損傷している場合は絶対に使用しないでください。
- > 完全に組み立てられている状態でのみ、コーヒーマシンを使用してください。

 注意



> 内蔵されている安全装置はどのような状況においても、絶対に変更しないでください。



> マシンを8歳未満のお子様や身体が不自由な方、知的能力の弱い方、経験や知識不足の方が使用する場合は、必ず十分な使用経験と知識をお持ちの方がそばにつき添い、正しい知識や指示でマシンを安全に使用し、発生するリスクを理解した状態でお使いください。



> お子様にマシンで遊ばせないでください。

> クリーニングやユーザーメンテナンスをお子様にさせないでください。

⚠ 注意

安全装置が搭載されていても、コーヒーマシンの使用を誤ると危険です。怪我や健康被害のおそれを避けるために、コーヒーマシンを使用する際には以下の指示に従ってください。



感電死の危険あり



- コーヒーマシン内の主電源電圧は生命の危険にかかわるほど高圧です。
- > マシン外装は絶対に開けないでください。
- > 絶対にねじを緩めたり、外装部分を外したりしないでください。
- > 電源ケーブルが損傷しないようにしてください。曲げたり、押しつぶしたりしないでください。
- > 破損した電源ケーブルは絶対に使用しないでください。破損した主電源ケーブルの使用は危ないので、危険を避けるために製造者またはサービス担当者により交換を受けてください。
- > 電源プラグを水や液体に浸けないでください。水や液体を電源プラグにかけないでください。プラグは常に乾燥した状態に保ってください。
- > コーヒーマシンの背面にあるプラグは、電源からケーブルを外した後に引き抜きます。
- > メンテナンスや修理の前にコーヒーマシンを電源から離してください。電源から離すにはプラグを引き抜きます。メンテナンスまたは修理を行う者は電源が入っていないことを必ず目視ではっきりと確認できなければなりません。

 警告

⚠ 注意

⚠ 火傷の危険/火傷のおそれあり



• 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。



• 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。

• スチームジエットカップウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。

> 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。

> 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。

> 供給直後は供給口に触れないでください。

> 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグラインダーに巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- > 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

 注意

指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり

-  • コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 操作パネルを閉じるときは、手や指が挟まれるおそれがあるので注意してください。
- > コーヒングラインダーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
- > 操作パネルを閉じるときは注意しながら行ってください。
- > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。

 注意



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒー豆ホッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意



スリッパの危険あり



- コーヒーマシンの誤った使用、または不具合によって水漏れが発生する恐れがあります。これらの液体によるスリッパの危険があるため、注意してください。
- ミルククリーナーのボトルを交換する際に、液体がこぼれることがあります。これが原因となり、滑って怪我をするおそれがあります。
- > コーヒーマシンの密閉性が保たれているか、水漏れがないか、定期的にチェックしてください。
- > ミルククリーナーのボトルを慎重に交換してください。液体がこぼれた場合は、すぐにふき取ってください。

⚠ 注意

 **健康被害のおそれ/
刺激・火傷のおそれあり**

 **注意**

-  ・クリーニング中にコンビ 供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- ・高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
 - ・ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
-

 **健康被害のおそれ**

 **注意**

- ・ミルクシステム用洗剤やクリーニングタブレットは刺激物です。
- > 洗剤のパッケージに記載されている注意事項に従ってください。
- > クリーニングタブレットはパネル上に通知が表示されてから使用してください。
-

1.2 使用目的



誤った使用法

- ・ マシンを本来の目的以外で使用した場合、怪我のおそれがあります。
 - ▷ コーヒーマシンは本来の使用目的のみで使用してください。

△ 警告

- ガイドライン
- ▷ 125° -ジ
- テクニカルデータ
- ▷ 128° -ジ 以降

- ・ WMF 1500 S+はコーヒー、ミルク、パウダー（チョコ／トッピング）を組み合わせ適切な容器に飲み物を供給するように設計されています。
- ・ 使用するコーヒー豆、ミルク、トッピング、チョコパウダー製品は全自動コーヒーマシンでの加工に適したものを使用してください。消費期限を過ぎた製品は加工に使用しないでください。
- ・ 本機は業務用での使用を想定し設計されており、売店や事務所、レストランやホテル、または同様の使用環境にある専門員や教育を受けたユーザーによる使用を意図しています。また、ご家庭でも使用していただけます。

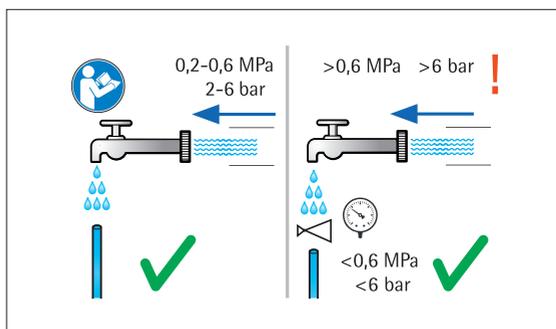
設置場所

- 本機は使用方法の教育を受けた人員が監督する環境であれば、セルフサービスで使用しても構いません。
本機はよく見える場所に設置してください。
- 本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。
- 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
- 水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。
- コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。

給水接続

- メインコックとフィルター（メッシュ幅0.08 mm）付き3/8インチのホース接続（現場側で用意）。2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa（2 bar）。最高水圧0.6 MPa（6 bar）。

重要! 現地の水圧が0.6 MPa（6 bar）を超える場合には、最大0.6 MPa（6 bar）に設定されるよう、必ず減圧弁をあらかじめ作動させる必要があります。



- 最大供給温度 35 °C。
- コーヒーマシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルターと一緒に納品されるホースセットを使用する必要があります。使い古したホースは再使用しないでください。

周辺温度

- 環境温度: +5 °C ~ +35 °C

使用

- 本機は必ずお手元の取扱説明書に従って使用してください。取扱説明書と異なったり、取扱説明書から逸脱したりする使用は、不適切とみなされます。これにより損傷が発生しても、製造者は一切責任を負いかねます。
- **WMF 1500 S+**は**コーヒー、熱湯(飲料、クリーニング液)あるいはミルク(冷蔵、低温殺菌、牝牛乳、ロングライフミルク)を加熱・供給するためのものであり、それ以外の使用は絶対に避けてください。**

衛生

- コーヒーマシンは、支障なくメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。
- 事務所やカフェでの使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがメンテナンス措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

1.3 設置・使用条件



火災のおそれ/事故のおそれあり

- > テクニカルデータの章で規定されている設置・使用条件は遵守しなければなりません。
- > マシンのプラグを差し込む前に、接地する側の電源電圧と機銘板に記載されている仕様情報が対応していることを確認してください。

警告

テクニカルデータ
▷128°-ジ以降



設置・使用条件

- > コヒーシオンは霜のつかない屋内でのみ使用します。
- > コヒーシオンを5℃以下の温度環境で輸送または保管していた場合は、試運転調整を行う前に必ず5時間以上室内に置いて部屋の温度に馴染ませてください。

重要

テクニカルデータ
▷128°-ジ以降

電気接続、給水接続、排水接続等の、現場側での準備作業は、マシンの管理責任者が手配しなければなりません。一般的なものから国・地域で規定される法令に注意して認定設置者により設置を行ってください。WMF サービスエンジニアが担当できるのは、用意された接続部にコーヒーマシンを接続する作業だけです。WMF サービスエンジニアによる現場での据付作業は認められていないため、エンジニアは据付の実施については責任を負いかねます。

機器の接続と使用開始の作業は必ずWMFサービスが行います。

2 序章

2.1 コーヒーマシンの各部名称



供給可能表示



ネットライン

機能ライン

- 1 コーヒー豆ホッパ - (最大 2 つまで)、ロック可能
- 2 パウダーホッパ - (オプション)、ロック式 (例: チョコまたはトッピング)
- 3 マニュアル投入口/洗浄剤投入口
- 4 淹れたてフィルタコーヒー - FFC (オプション)
- 5 飲料ボタンと設定用タッチパネル
- 6 ミルクフォーマー内蔵型ミルク供給口
- 7 自動カップ検出 (オプション)
- 8 コーヒーカ受け
- 9 スチムジエットカップウォーマー
- 10 取り外し可能なドリフトレー (ドリフトゲリット付き)
- 11 熱湯/スチム/スチムスチム (オプション)
- 12 水タンク/加熱除去用容器 (オプション)
- 13 操作パネル
- 14 サイド照明
- 15 オン/オフスイッチ (操作パネルは開)
- 16 ホッパロック

供給可能表示

- 17 エコモード
- 18 メニューパッド (メインメニューを開く)
- 19 飲料ボタン
- 20 スチムジエットパッド
- 21 ホットリンスパッド
- 22 バリスタパッド

パネル上のパッドやボタンは設定やマシンモデルにより異なります。

ここに画像表示する機能は例です。
ソフトウェア > 38ページ以降

取扱説明書の記号とマーク



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度から重度の怪我を負うことがあります。



安全上の注意事項 怪我のおそれあり

安全上の注意事項に従わないと操作ミスにつながり、軽度の怪我を負うことがあります。



感電



高温のｽｰｰム



指などが挟まれるおそれ



高温の表面



ｽﾘｯﾌﾟの危険あり



物損についての注意事項

- ・ コーヒーマシンに対して
- ・ 設置場所に対して
- > 必ず取扱説明書の指示に従ってください。



注意事項/ヒント

- ・ 安全な取り扱いのための注意事項や、操作を容易にするためのヒントが記載されています。



警告

安全性についての章を参照
▷76°-ｼﾞ以降



注意

操作に関する安全上の注意事項
▷24°-ｼﾞ
安全上の注意事項 カｽﾀｰ
▷83°-ｼﾞ
安全性についての章を参照
▷76°-ｼﾞ以降

重要

保証の章に注意
▷127°-ｼﾞ以降
ﾃｸﾆｶﾙﾀﾞｰﾀ
▷128°-ｼﾞ以降

注意事項

ヒント

用語集

用語	解説
•	• 箇条書き、選択オ [°] ション
*	* 各作業ステップ [°]
斜字テキスト	コーヒーマシンの状態の説明および/または自動ステップ [°] の解説
AutoClean	完全自動クリーニング [°] システム
FFC	淹れたてフィルターコーヒー - 淹れたてのフィルターコーヒー
容量	例えば: 浄水フィルター処理能力 (ℓ)
挽いた豆のスライト [°]	▷ コーヒーが落とし、35° - ジ
湿らし行程	香りを強く出すために、実際に抽出を行う前にコーヒーに少量の熱湯が注がれます。
硬度	°dKHで表示水の硬度は、飲料水に含まれるカルシウムの量を表します。
追加	コーヒー、ミルク、ミルクフォーム、チョコやトッピング [°] といった飲料用レシピ [°] の構成要素。
飲料供給	コーヒー、熱湯あるいはパ [°] ウタ [°] - 飲料の供給
カップ 検出	このオ [°] ションのセンサーは自動でカップ [°] の高さを計算します。このオ [°] ションでは、3種類のモード [°] から希望のものを選択できます。
コンビ 供給口	標準仕様はダブル供給口オ [°] ションでシングル供給口もお求め可能。
セルフサービスモード [°]	セルフサービス
チョコ	ホットチョコレート
デカフェ	デカフェのコーヒー
バリスタ	コーヒーのスペシャリスト
パ [°] ウタ [°] - 飲料	チョコやトッピング [°] など
プレス	抽出前の、挽いたコーヒーの自動プレス。
ミキサー システム	パ [°] ウタ [°] - 飲料用ミキサーとホ [°] ショナーの総称
ミルクシステム	コンビ 供給口、ミルクノズルおよびミルクホース
メインコック	止水栓、アングル弁
リンス	中間的な洗浄

3 操作

3.1 操作に関する安全上の注意事項



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 加熱フェーズ中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
 - > 加熱フェーズ中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 飲料やスチームの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ

- > 飲食用であり、コーヒーマシンでの使用に適した製品だけを使用してください。
- > パウダーホッパー、コーヒードリッパー、マニュアル投入口を使用する場合、用途に見合った材料のみを入れてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- FFCのフタを設置するとき、手などを挟む危険があります。
- > FFCのフタは慎重に取り付けてください。

⚠ 注意



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 淹れたてフィルターコーヒーの供給中、熱い液体が流れ出ることがあります。その際は近くの表面が非常に熱くなります。



- > 飲料供給時は、FFCカップセルに触れないようにしてください。
- > FFCカップセルは飲料供給後すぐに触れないようにしてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 78ページ以降



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- > 稼働する供給口のエリアを握らないでください。
- > コーヒーグライндаーや抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

⚠ 注意

3.2 その他書類

パーションによりシロップステーション

- シロップステーションの取扱説明書をよくお読みください。
- シロップステーションのクリーニング手引きをよくお読みください。

3.3 コーヒーマシンのスイッチを入れる

※ 操作パ° 祉を上 に動かす

操作パ° 祉の裏、右側にオン/オフスイッチがあります。

※ オン/オフスイッチを押す

コーヒーマシンのスイッチが入り、加熱がスタートします。

ホットリスが自動的に始まります。

コーヒーマシンで飲料供給の準備が完了すると、パ° 祉に供給可能と表示されます。

コーヒーマシンはタイマーを使ってオン/オフできます。



PINアクセス管理

▷PIN 権限

63パ° -ジ

タイマーの入る時間を設定

▷タイマー

65パ° -ジ

3.4 ミルクまたはミルクフォーム(オ° ション)

3.4.1 ミルクを接続する

パ° -シックミルク

適切なミルクノズルをコピ° 供給口で使用します。

色	ミルク温度
・ グリーン	とても冷たいミルク (8 °C 以下)
・ ホワイト	冷蔵されているミルク (8 ~ 16 °C)
・ キャラメル色	冷蔵されていないミルク (16 °C を超過)

※ ミルクパ° ックを開け、コーヒーマシンの左横に置く

※ パ° -ジ° 色のミルクノズルがついたミルクホースをミルクパ° ックに差し込む

ホースはミルクパ° ックの底まで届かなければなりません。コピ° 供給口の高さ調節では、ホースが引っ張られたり折り曲げられたりすることがないようにしてください。



クーラーのある仕様



**WMFミルククーラー、WMFカップ・アンド・クールイージ -ミルク、
ダイミックダイミックミルク (オフ ション)**

ベ -シックミルク

* 冷蔵されたミルク用のミルクズルをコヒ[®] 供給口のミルク
接続口に差し込む

- * ミルク容器をクーラーから外す
- * ミルク容器のフタを後ろにずらす
- * ミルクをミルク容器に注入
- * フタを再び容器の上にセット
- * ミルクホースのアダプターをミルク容器の蓋にある接続口
に挿入
- * ミルク容器を慎重に押し戻す



ミルク容器のアダプター



ミルク容器

3.4.2 ミルク/ミルクフォームの供給

- * コヒ[®] 供給口の下に適切なサイズのカップ[®] を配置
- * ミルクまたはミルクフォームに割り当てられた飲料ホ[®] タンを
タッチする

供給はレベル[®] 内の設定に応じて行います (供給
オ[®] ション、フォームの質など)。

供給オ[®] ション
▷カップ[®] 容量
47ℓ[®] -ジ

スタート・ストップまたは供給

3.5 飲料供給

飲料ボタンを押すと、設定した飲料の供給が開始されます。

- ボタン点灯 = 供給可能
- ハット-の点灯している = 供給不可/ボタンが無効
ないキ-/赤い三角

- * コレ供給口の下に適切なサイズのカップを配置
- * 希望の飲料ボタンにタッチします

飲料のキャンセル

- * タッチした飲料ボタンをもう一度タッチ



飲料選択

ボタンライト
▷操作オプション
58ページ

3.6 淹れたてフィルターコーヒー - FFC (オプション)

新しい機能「淹れたてフィルターコーヒー」で、フィルターを通した淹れたてのコーヒーを供給できます。この追加フィルターシステムを使って、オイルや沈殿物などのないコーヒーを淹れられます。原則、すべてのコーヒー抽出（エスプレッソまたはカフェクレム）でフィルターを通して淹れることができます。



3.7 事前選択パッド (オプション)

バージョンによりますが、「2種類目のコーヒー」といった
プレ選択パッドをディスプレイで利用できます。
これらのパッドは、飲料ボタンで飲料を決定する前
に希望する事前選択を行うための事前選択パッド
です。



例:
2種類目のコーヒーパッド
▷42℃-ジ

3.8 オプションのフィルター

パリスパッドのように、機能メニューでディスプレイに表示
できるオプションのパッドがあります。

ほかには、S/M/Lパッドなどがあります。
飲料にS/M/Lの容量を設定することで使用可能
です。

その後、飲料の選択前にカップ容量「S」または「L」を
選択することができ、選択したサイズに対応している
飲料ボタンだけが点灯します。

M = 設定した飲料サイズ、プレ選択なし

S = 約25% Mより少ない

L = 約25% Mより多い

オプションのパッドを有効にして設定
▷操作オプション
55℃-ジ



例:
パリスパッド



例:
S/M/Lパッド

3.9 カップサイズ調整

オプションとして自由なカップ容量の選択が可能です。
設定により、飲料選択後のカップ容量を選択後のモ
ードで調整できます。



3.10 熱湯供給

* 熱湯の供給口の下に適切なサイズのカップを配置

* 熱湯のボタンをタッチする

設定した供給オプションに応じて供給が始まります。



3.11 ヲ - シツク スチ- ム (オフ シヨソ)



火傷の危険/火傷のおそれあり



- 加熱フェ-ズ 中、熱湯と熱い蒸気が供給口から出てきます。
- 飲料とスチ- ムの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
 - > 加熱フェ-ズ 中は供給口の下を手で持ったり、触れたりしないようにしてください。
 - > 飲料やスチ- ムの供給中は、供給口の下に触れないでください。
 - > 供給直後は供給口に触れないでください。
 - > 飲料供給する前に、必ず供給口下に適切な大きさの容器を置いてください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷ 7^レ - ジ 以降

* スチ- ムホ^レ タを押す

スチ- ムホ^レ タを押す間、スチ- ムが供給されます。

- スチ- ムで飲料を暖める
- スチ- ムにより手作業でミルクフォームを作る

飲料を加熱

- * できるだけ細長い、グリップ付きCromargan® (クロマーガン) 容器を使用する
 - * 容器の最大半分まで充填する
 - * スチームノズルを容器の奥まで入れる
 - * 希望する温度に達するまでスチームボタンを押す
 - * スチームボタンを離す
 - * スチームノズルをトリップトレへ旋回させる
 - * スチームボタンを短く押す
- スチームパイプ内の残りを洗浄します。
- * 湿らせた布でスチームノズルを拭く

Cromargan® (クロマーガン) 容器
 WMF 注文番号: 03 9090 0030
 または 03 9090 0050

ミルクフォーム



> ミルクを泡立てている時はミルクの量が減らないよう、過熱させないでください。

ヒント

- * できるだけ細長い、グリップ付きCromargan® (クロマーガン) 容器を使用する
 - * 容器の最大半分まで充填する
 - * スチームノズルを液面の少し下の位置まで、容器に入れる
 - * スチームボタンを押し、その際、容器を時計回りに動かす
- これにより、濃い小規模なミルクフォームが生まれます。
- * スチームボタンを離す
 - * スチームノズルをトリップトレへ旋回させる
 - * スチームボタンを短く押す
- スチームパイプ内の残りを洗浄します。
- * 湿らせた布でスチームノズルを拭く

3.12 スチームジレットカップウォーマー

火傷の危険/火傷のおそれあり

- スチームジレットカップウォーマーからは、高温のスチームが供給されます。そのため、カップとその周辺の表面が熱くなります。
- > 耐熱性のカップを使用してください。
- > スチーム供給前には、必ずカップを逆さまにしてカップウォーマーの上に置いてください。
- > 供給直後には周辺の表面に触れないでください。
- > 供給直後は供給口に触れないでください。
- > ドリップグリッドやカップウォーマーなしの状態では、スチームジレット機能を絶対に使用しないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷76°-ジ以降
ドリップトレは毎日クリーニング
加タマーキ
▷83°-ジ以降

健康被害のおそれ/衛生面

- スチームジレット機能はカップを温めるためのものですので、クリーニング用には使用しないでください。
- > カップを温めるときは、必ず洗浄して間もないカップをご使用ください。

注意

安全性についての章を参照
▷76°-ジ以降

スチームジレットカップウォーマーは高温スチームによりカップを温めることができます。

* カップウォーマーの上に、カップを下向きにして配置する

* パッド  をタッチする

高温のスチームが、下からゆっくりとカップの中に流れ込みます。

スチームは、最大で設定した時間分だけ流れ込みます。

* スチームジレットパッドをもう一度タッチ

直ちにスチームの流れが止まります。



スチームジレットパッド 有効/無効
▷操作ボタン
56°-ジ

3.13 コーヒー 供給口の高さ調整

コーヒー 供給口は高さ調整が可能です。

※ 前面からコーヒー 供給口のレームを持ち、希望する高さにスライド

調整範囲： 70–175 mm



自動高さ調整 (オプション)

自動高さ調整では飲料によってカップ 高さが保存されます (タ イミックミルまたは SB パッケージ でのみ)。飲料供給前にコーヒー 供給口が自動で最適な高さに調整されます。

調整範囲： 175 mm まで

カップ 高さ
▷52^パ-ジ

カップ 検出 (オプション)

オプションのカップ 検出で、設定にもよりますが、3種類のモード から希望のものを操作できます。

- 存在検知
- オフス - カップ の高さに移動
- サイズ の事前選択

カップ 検出
▷システム
76^パ-ジ

3.14 コーヒー豆ホッパー / パウダーホッパー - ロック可能

ホッパーは、できるかぎり適時に補充してください。製品の鮮度を維持するため、ホッパーには最大でも一日分しか入れないでください。



• 異物が混入するとコーヒークラインダーが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。

- > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。
- > パウダーホッパーに過度に充填しないでください。
- > パウダーは押し付けたり圧縮したりしないでください。

重要

保証の章に注意
▷127^パ-ジ以降

3.15 マニュアル投入口ロック可能

マニュアル投入口はコーヒーマシンのフタの中央に取り付けられています。

マニュアル投入口の用途

- カフェインフリー等、異なる種類のコーヒーを淹れるとき
- 試しにコーヒーを淹れるとき
- クリーニング タブレットの投入口

- ! 挽いたコーヒーやクリーニング タブレットはパ ー 社上で通知されてから投入してください。
- マニュアル投入の場合は、挽いたコーヒーのみを使用してください。
- インスタントコーヒーパ ー ウダーは使用しないでください。
- 挽いたコーヒーが細かすぎる場合は、使用しないでください。

マニュアル投入口により挽いたコーヒーでコーヒーを淹れる

- * マニュアル投入口のフリップ を開ける
- * 挽いたコーヒーを投入 (15 gまで)
- * マニュアル投入口のフリップ を閉じる
- * 希望の飲料ボ ー タンにタッチします



タブレット洗浄剤投入口

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降



マニュアル投入口

3.16 コーヒー受け

コーヒー受けには、使用済みの挽いたコーヒーが排出されます。コーヒー受けには抽出約50回分のコーヒーが収まるようになっています。

コーヒー受けを空にする必要がある場合、パ° 祉上[®]にその旨の通知が表示されます。

コーヒー受けが取り外されている間、飲料供給は不可能となります。

- * コピ° 供給口を上げる
- * コーヒー受けを外す
- * コーヒー受けを空にして再びセット
- * プ° ロセスをパ° 祉上[®]で確定する



コーヒー受けのクリーニング
▷ 手動クリーニング[®]
102パ° -ジ[®]



- コーヒー受けを空にせずに設置すると、コーヒーがあふれ出ます。コーヒーマシンが汚れ、マシンの損傷につながるおそれがあります。
 - > コーヒー受けを設置するときは、常に空の状態でご設置してください。
 - > コーヒー受けを上手く設置できないときは、ダクト外にコーヒーが残っていないかチェックし、残っている場合には取り除いてください。

重要

保証の章に注意
▷ 127パ° -ジ[®]以降

3.17 コーヒー落とし(オプ° ション)

コーヒーマシンにはコーヒー落としを取り付けることができます。このタイプ[®]では、コーヒー受けとコーヒーマシンの底に開口部が設けてあり、現場のマシンカウンター台の開口部に続いています。コーヒーは、マシンカウンター台下にある個別容器へと排出されます。

重要

挽いた豆のスクレイパー[®]を毎日クリーニング
▷ 手動クリーニング[®]
102パ° -ジ[®]

3.18 ドリップトレイ



火傷のおそれ



- ドリップトレイには高温の液体がたまっていることがあります。
- > ドリップトレイは慎重に動かしてください。
- > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。



排水用接続部があるコーヒーマシンでは、ドリップトレイも取り外せません(クリーニングのためなど)。

排水用接続がないコーヒーマシンでは、ドリップトレイを定期的に空にしなければなりません。

* ドリップトレイを慎重に取り外して空にし、再びセット

3.18.1 ドリップトレイセンサ (オフ ション)

ドリップトレイセンサがある仕様の場合、最大充填レベルに達するとコーヒーマシンはパネルに通知を行います。

* メッセージを受けたら、ドリップトレイを注意して取り外し、空にしてから戻します

注意

安全性についての章を参照
▷76°-ジ以降
ドリップトレイは毎日クリーニング
カスタマーケア
▷83°-ジ以降

注意事項



3.19 コーヒーマシンのスイッチを切る



衛生面に注意

- ・ コーヒーマシンの中で有害な細菌が繁殖することがあります。
- > コーヒーマシンのスイッチを切る前に必ず毎日のクリーニング[®]を行ってください。



取扱説明書を確認

- ・ 取扱説明書の指示に従わずにマシンを使用して発生した損傷については、保証は適用されません。

- * 操作パ[®] 祉を上[®]に動かす
操作パ[®] 祉の裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * 信号音が鳴るまでオン/オフ[®] 祉を短く押す
続いてコーヒーマシンのスイッチがオフになります。
- * 主電源からプラグ[®] を抜く
- * 水道のメインコックを閉める

注意

安全性についての章を参照
▷78° -ジ[®]以降

取扱説明書に従ってコーヒーマシンをクリーニング[®]してください。

カスタマーケア
▷83° -ジ[®]以降

重要

保証の章に注意
▷127° -ジ[®]以降



PIN7[®]ケア管理
▷PIN 権限
63° -ジ[®]

4 ソフトウェア



- 飲料設定の際には、コーヒーマシンの操作についてのものと同様の安全上の注意事項に従ってください。
- > 操作についてのすべての安全上の注意事項に従ってください。

⚠ 注意

操作に関する安全上の注意事項
▷ 24℃ -ジ°

4.1 概要

供給可能

40℃ -ジ°



ホ°タンレイアウト
▷ 操作オ°ション
58℃ -ジ°

パ°ネル上のパ°ット°やホ°タンは設定やマシンモデルにより異なります。

機能ライン供給可能表示

40℃ -ジ°



スチムジ° イットカップ° ウォーマー



エコモード° (有効)



飲料サイズ (S-M-L)



ホットリンス



スチムホ°タン



パ°リスタ (コーヒーの濃さ)



2種類目のコーヒー (デ°カフェ)



熱湯



ミルクシステム補充



カップ°サイズ°調整



栄養成分情報

メインメニューの機能

43ℓ - ℓ以降



カスターケア
43ℓ - ℓ



飲料
46ℓ - ℓ



操作オ^ンション
55ℓ - ℓ



インフォメーション
61ℓ - ℓ



会計
62ℓ - ℓ



PIN権限
63ℓ - ℓ



タイマー
65ℓ - ℓ



システム
69ℓ - ℓ



言語
79ℓ - ℓ



ソフト^ト
80ℓ - ℓ



USB
81ℓ - ℓ

メニュー制御ハ^{ット}



メインメニュー/戻る



値/設定の確定



PIN入力



値/設定の削除



次へ/開始



飲料テスト



設定のリ^{ート}



戻る



設定の保存



キーボ^{ード}表示

ハ^{ット} 補上の通知



ハ^{ット}ント/エラー通知



ミルク温度の表示 (オ^ンション)

4.2 供給可能表示

パネルの供給可能表示は、コーヒーのオプションや個々の設定によって異なります。

4.2.1 飲料ボタン

供給可能なすべての飲料ボタンで照明が点灯しています。

選択したキーレイアウトによってはパネル上を水平にワイプすることで他の飲料に進むことができます。

希望する飲料ボタンをタッチすると、飲料供給が開始されます。



例: カプチーノボタン
ボタンレイアウト
▷ 操作オプション
58° - ジ

4.2.2 機能ライン

スチームジェット

カップの温め。



スチームジェット
▷ 操作オプション
56° - ジ

ホットリンス

※ 「ホットリンス」をタッチする

コーヒー管路に熱湯が流れてリンスが始まります。これによって抽出装置が加温され、最適なコーヒー温度が保証されます。

長い間抽出しなかった後で、特にエスプレッソを供給する前の使用をお勧めします。



ホットリンス有効/無効
▷ 操作オプション
56° - ジ

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。



栄養成分情報
▷ 操作オプション
56° - ジ

カップサイズ調整

次の飲料の飲料サイズ選択。



カップサイズ調整
▷ 操作オプション
57° -ジ

S/M/Lパッド

飲料サイズの°選択。事前に飲料を正しく設定する必要があります。



S/M/L
▷ ソフトウェア
▷ システム
75° -ジ

パリスパッド - コーヒーの濃さ

	表示	コーヒーの濃さ
押さない	コーヒー豆2つ	ノーマル、設定通り
1回タッチ	コーヒー豆3つ	設定より15%濃い *
2回タッチ	コーヒー豆1つ	設定より15%薄め *

* 1回の抽出で使える挽いたコーヒーの最大量は15g
コーヒーの濃さを変更すると、その後1回の抽出分だけ濃さが変更されます。



パリスパッド有効/無効
▷ 操作オプション
55° -ジ

ミルクシステム補充

自動ミルクシステム補充。



ミルクシステム補充
▷ 操作オプション
58° -ジ

2種類目のコーヒー(デカフェ)

- * まず「カフェインフリー」のマシングレードに「ライント」を割り当てます
- * 操作オプションで「カフェインフリー」を選択します
チェックの付いた豆のマークが機能バーに表示されます。
- * 飲料選択前に、このマークをタップします
次の飲料供給の準備では、カフェインフリーで
コーヒーライントの豆を用意できます。



2種類目のコーヒー
▷ 操作オプション
59ページ

スチームボタン

スチームボタンで熱いスチームが排出され、飲料を温められます。
スチームボタンではミルクのフォームを作ることができます。



熱湯ボタン

熱湯供給用熱湯ボタン。
また、熱湯用の飲料ボタンが用意されている場合もあります。



4.3 カスタマーケア



システムクリーニング

システムクリーニング[®]の後にコーヒーマシンのスイッチを切る、切らないの選択が可能です。

ミキサーリンス

ミキサーリンスは中間的に行われるミキサーのクリーニング[®]です。

ミルクシステムクリーニング

ミルクシステムクリーニング[®]は単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていないときに有効です。ミルクシステムクリーニング[®]ではミルクシステムクリーニング[®]を行います。



メニュー制御パッド[®]
 ▷ 概要
 39° -ジ
 カスタマーケア
 ▷ 83° -ジ 以降
 HACCPクリーニング[®] コンセプト
 ▷ 112° -ジ 以降



システムクリーニング[®]

システムクリーニング[®]
 ▷ カスタマーケア
 86° -ジ 以降



ミキサーリンス

ミキサーリンス
 ▷ カスタマーケア
 93° -ジ



ミルクシステムクリーニング[®]

ミルクシステムクリーニング[®]
 ▷ カスタマーケア
 94° -ジ

徹底システムクリーニング® (AutoClean)

これはミルクホースも対象としたシステムクリーニング®です。
オプションで、システムクリーニング® 終了後に「電源を切る」または「電源を切らない」を選択できます。
1日以上期間運転しない場合に、休止前に実施することをおすすめします。



徹底システムクリーニング®

FFC フィルター交換

フィルターは100回抽出ないし72時間経過後、交換が必要です。

* **FFC フィルター交換** をタップします
ディスプレイで操作手順が始まります。

* ディスプレイの案内に従います
このパッドをタップすると、現在使用中のフィルターであと何回抽出できるか、またはFFCのシステムクリーニング®を次はいつ実行すべきかを表示して確認できます。



FFC フィルター交換

FFCフィルター交換
▷ ケア
93° - ジ

フォーマのリス

フォーマのリスは中間的に行われるミルクフォームのクリーニング®です。



フォーマのリス

フォーマのリス
▷ カスタマーケア
92° - ジ

クリーンロック

* **クリーンロック** をタッチする
15秒間のカウントダウンが始まります。
この間にタッチパネルのクリーニング®を行ってください。
最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。



クリーンロック

操作パネルクリーニング®
▷ カスタマーケア
101° - ジ以降

説明

使用可能なクリーニングプログラム、ミキサーやクリーニング用コンテ供給口の脱着方法が画像で分かりやすく説明されます。

説明

クリーニング 間隔概要
 >77
 85° -ジ

ミルクシステム補充(ダ イミックミルク)

この機能により、ミルク飲料供給のためにミルクシステムを充填します。

* **ミルクシステム補充** をタッチする

ミルクシステム補充

設定

設定

スイッチオアシス

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 最後にクリーニングを実行してからミルク飲料を供給している場合には、コーヒーマシンのスイッチを切る際に、スイッチオアシスを実行しなければなりません。

クリーニング後にミルクシステムを準備

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 ミルクシステムクリーニング後、マシンは通常オアシスになります。機能が有効になっている場合、ホーターはミルクコンテナのクリーニング後最大15分間再度電源を入れて使用できます。これで、コーヒーマシンは次回起動時に再度運転準備が整います。

4.4 飲料



概要

供給テスト

大半の飲料設定では、レシピを保存する前に新しい設定で飲料供給テストを行えるようになっています。



例: カフェボタン

※ 設定を希望通り変更

※ 「供給テスト」パッドをタッチ

新しい設定値に従って飲料が供給されます。

※ 新しい設定値の飲料が満足いくものであれば、「保存」アイコンをタッチ
レシピが保存されます。

レシピの保存

変更されたレシピが保存されます。



レシピをロードする

保存されているレシピが飲料ボタンにロードされます。

※ 飲料ボタンにタッチ

※ 「レシピをロードする」パッドをタッチ

サブメニューが開きます。

※ 希望するレシピをマークする

※ 「レシピの保存」パッドをタッチ

飲料ボタンに新しく選択したレシピが割り当てられます。



カップ容量、複数倍の抽出と供給オプション



カップ容量

希望するカップ容量を設定します。レベルは適切に調節されます。

100%はこれまで保存されている値に相当します。

S-M-L機能

S/M/L機能は「システム」メニューで有効にできます。基本的に、どの飲料でもデフォルトのカップ容量に対する差分を操作オプションで変更することができます。

その他の各飲料では、S/M/L量はカップ容量オプションから変更でき、

各サイズを有効/無効に個別設定することもできます。無効にすると、各飲料のサイズを選択できなくなります。

S/M/Lを有効にして全飲料を変更

▷ソフトウェア

▷システム

75% -ジ

オプションのフィルタ

▷操作

29% -ジ

カップ容量 S/M/L

レベルがSとLサイズのために作成されます。Mは設定通りとなります。

標準値:

S = 設定値より25%減量

L = 設定値より25%増量

	S	M	L
	72	97	122
	73	98	123
	74	99	124
%	75	100	125
	76	101	126
	77	102	127
	78	103	128

S - 有効 有効 L - 有効

飲料ごとにS-M-Lを変更

▷カップ容量

複数抽出

飲料は設定の複数倍抽出されます。ボタンを1回押すだけで、設定量の最大12倍までの供給ができます。コーヒーやミルク入りミックス飲料、供給タイプ「供給」の熱湯で利用できます。

供給ボタン

- **スタート・ストップ**
供給は設定量に達するまで行われます。途中で供給を中止するには、ボタンをもう一度押してください。
- **スタート・ストップ フリーフロー**
ボタンを軽く押すとスタート・ストップ 供給となります。ボタンを1秒間以上押すと、フリーフロー供給が開始されます。
- **フリーフロー**
ボタンを長押ししている間だけ、飲料やスチームが供給されます。
- **供給**
設定した量が供給されます。供給ボタンはミルク、ミルクフォーム、熱湯で表示されます。

供給ボタンでは、熱湯、ミルク、ミルクフォームの設定が可能です。

レシピの変更



メニュー制御パッド
▷概要
39ページ

☰

カフェノ飲料設定

レシピの変更

現在のレシピ構成：

エスプレッソ 9 g, 35 ml					
フォームクリーム 140 ml					

供給順序 → 176 ml 当たりのおおよその量

△ 保管
栄養成分情報 ▷

追加物 初期値：

コーヒー	ミルク	コールドミルク	ミルク一旦停止	フロッグ	一旦停止
エスプレッソ	ミルクフォーム	コールドフォーム	熱湯	ソフト	

希望する追加物にタッチしたままドラッグします。

✕
|||
? □
☰

現在のレシピ構成

レシピに含まれている追加オプションがここに表示されます。

作成手順は左から右に表示されます。上下に並んでいる追加オプションは同時に処理されます。

希望のオプションを技術上の理由により選択できないときは、ソフトウェアによって通知が出されます。

工場出荷時設定で用意されている追加オプション

レシピに追加できる追加オプションはここに表示されます。

* 希望する追加物を選び、レシピ作成でもう一度希望する位置を押す

追加物がすぐに希望する位置に追加されます。

追加物の削除

マークのついた追加オプションを現在のレシピ構成から削除します。



追加オプションの変更

* 追加オプションをマークし、「追加オプションの変更」をタッチ追加オプションの変更のメニューが開きます。

選択した追加オプションの設定オプションが表示されます。保存されたデータと現在のデータが表示されます。



現在の値



サービスエリアによって保存された値



工場出荷時の設定値

コーヒー粉の量

単位:グラム(g)



水量/ミルクの量

単位:ミリリットル(ml)



FFC

ここでは、淹れたコーヒーをクーラーに通して冷却するかを設定できます。



ダ イミックミルク ミルクフォームの仕上がり品質

ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、各飲料に合わせてミルクフォームの仕上がりを調節できるようになっています。

1つの飲料に異なる仕上がりのミルクフォームを組み合わせることができます。

- しっかり** しっかりとしたミルクフォーム。ブ ラウンエッジ のか° チーノやミルクフォームの見た目を重視する飲料で、バ ランスの取れたミルクの風味を出したいときに最適です。
- シルキー** 木の細かいミルクフォーム。ラッスの取れたミルクの風味を際立たせたいか° チーノに適しています。理想的なコーヒーとミルクの組み合わせ。
- クリーミー** つやのあるミルクフォーム。ミルクの風味のバランスが取れており、コーヒーとミルクの組み合わせが良好なミルク飲料に最適です。
- ふんわり** 空気をたっぷりと含んだフワフワと軽いミルクフォーム。どちらかという粗い感じの泡でバランスの取れたミルクの風味が特徴です。

コーヒーの品質

コーヒーの抽出は、品質レベルによって変化します。品質レベルを高くするほど、抽出されるコーヒーの香りと味が強まります。



品質レベル

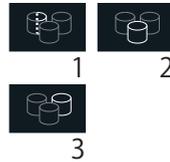
- 1 プリ後、挽いたコーヒーが水を含むようにするためのスプレースが与えられます。
- 2 プリ直後から抽出が始まります。
- 3 プリ後、湿らし行程に入ります。
- 4 プリと湿らし行程後、2回目のプリをします。
- 5 品質4と同様ですが、さらに強くウェットプリをします。
- 6 品質5と同様ですが、さらに強くウェットプリをします。
- 7 品質6と同様ですが、さらに長くウェットプリをします。

注意事項!

抽出用熱湯がわずかな状態で非常に細かいコーヒー粉を使用すると、品質レベルが高い場合は抽出用熱湯エラーが発生することがあります。

コーヒーグライнда`を選択

コーヒー粉の挽く分量全部は10に相当します。全分量は各種グライнда`-を合わせることができます。そのため、様々な個別のレシ`が可能です。



テキスト、画像、カップ`高さ



メニュー制御パッド`
▷概要
39ページ`

「カップ`を検知」パッド`は、「存在検知」が有効になっている場合にのみ表示されます。
▷カップ`センサーを使った存在検知
▷53ページ`

テキストと画像

ここで飲料の名称と飲料ボ`タンの画像を設定します。
* キーボ`ードパッド`にタッチしてキーボ`ードを有効にします

個別の飲料画像を読み込む
▷USB
81ページ`

備考

飲料についてのメモはここに保存できます。

カップの高さを手動で調整

飲料のカップの高さを調整ホイールで調整します。

- * 調整ホイールの高さを調整
 - * 右側にある、この高さを合わせたいカップマークをタップします
- 値がカップのマークに合わせられます。

サイズ「S」および「L」の飲料は、飲料ホッパ選択前にサイズを選択する必要があります。

カップセンサーを使った存在検知 カップ検出(オプショナル)

「存在検知」機能で、**カップを検知** ハットが表示されます。

- * カップを下に置きます
 - * **カップを検知** をタップします
- カップが検知されます。
検知されたカップの高さ調整を適用すると、ディスプレイの調整ホイールの上に表示されます。

飲料の選択時に供給口の存在検知が有効になっていると記録された高さに移動し、準備が整います。

カップセンサーによるサイズの選択

センサーはカップの高さを検知して、検知した高さが記録された値に一致すると飲料を供給します。

カップセンサーによるサイズの選択は、「サイズの選択」モードでのみ可能です。
▷76ℓ-ジ
許容カップ高さ
▷システム▷カップ検知
76ℓ-ジ

設定されているカップの高さS/M/Lを使用します

このパッドが有効になっていると、システムメニューのカップの高さが調整されます。

この機能が有効になっていると、高さは手動で調整できません。調整パネルは表示されなくなります。

S/M/Lは有効である必要があります。

▷システムを介してカップを設定

▷カップ検知

76° -ジ

ボタンの入れ替え

2つの飲料ボタンが入れ替わります。

* 飲料ボタンにタッチ

* 「ボタンの入れ替え」パッドをタッチ

* 入れ替える飲料ボタンにタッチ



ホットリンスパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

栄養成分情報

飲料毎の材料および栄養成分値情報の表示。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

栄養成分情報を更新する
▷システム
▷栄養成分情報
75° -ジ

メニューパッド

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 メニューパッドにタッチすると、メニューパッドが直ちに反応します。

無効 何もないところを二回押すとメインメニューに戻ります。

スチームジェット

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 供給可能になるとパッドが表示されます。

エラー表示

エラーはパネルのヘッドラインにおいて、様々な色で通知されます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

カップサイズ調整

自由なカップ容量の選択を、操作オプションで有効にできます。

カップ容量は飲料選択の前に、使用するカップサイズに適合させることができます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

レギュラータ上のカップを右にずらすと、カップ容量が増加し、左にずらすとカップ容量が減少します。

カップ容量はパネル単位で表示されます。

レギュラ外は中央 設定どおり100%

レギュラ外は左端 50%減少

レギュラ外は右端 50%増加

言語別選択

飲料設定について、言語と国旗の別選択を可能にするかどうか、ここで設定します。「言語別選択」はここで有効にするか、キーレイアウト「SB+フラグ」の選択により有効化可能です。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効



この機能はS/M/L別選択が有効の場合一緒に使用できません。

キーレイアウト「SB+フラグ」
 ▶ キーレイアウト
 58ページ

ミルクシステム補充

この機能はミルクシステムを満タンにします。ミルクシステム補充はここで有効にできます。

ミルクシステム補充
▷ カタマーケ
45° -ジ

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 エラーはテキストでパネル上に表示されます。

ホットドリンク

種々の標準ホットドリンクがここに保存されており、選択できるようになっています。



ホットセレクション

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 飲料の選択後、コーヒーのタイプと飲料サイズを選択できます。

コーヒーのタイプの名称とサイズは変更できます。
(コーヒーのタイプとS/M/L)。

選択オプションは各種装備により異なります。



- サイズ 1、2、3
- ホットチャージ 1、2、3
- ミルク種類
- ショップ 1、2、3、4 (オプション)

ホットセレクション機能に使用する
オプションをメニュー「システム」で有効に
します。

システム
▷ 69° -ジ

セルフサービスモードのために、いくつかの機能を無効にすることができます。

無効にしておくと、機能と該当するボタンが画面に表示されません。

カフェインフリー

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効



カフェインフリー

デカフェ係数

ここでデカフェ係数を入力します。
デカフェ(デカフェのコーヒー)のコーヒー粉の量は、レシピに設定されているコーヒー粉の量に対する割合で設定します。この設定はあらかじめ「デカフェ」を設定すると、全てのコーヒー飲料に対して有効となります。

設定範囲: -25%から15%

標準値: 10%

デカフェ係数を15%にした場合、例えばカフェレムの作成ではデカフェ機能により、挽いたコーヒーを15%増量して抽出されます。

飲料プレレクション

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 事前に選択された飲料はさらに押さなくても供給されます。
ヘッドラインには「飲料プレレクション有効」と表示されます。



飲料プレレクション

飲料のキャンセル

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

有効 飲料ボタンを再度押すと、飲料供給を中断できます。

□

メーカーの□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

有効 メーカー□ は準備完了パネルの右上に表示されます。

お客様の□

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 無効

有効 オプションが「有効」に設定されており顧客□ が読み込まれている場合、顧客□ は運転準備完了時にヘッドライン中央に表示されます。自動販売機と接続されている場合、顧客□ が左に表示されます。この場合、□ を両方表示することはできません。

お客様の□ をロード

顧客□ 入りの USB スティックを挿し込みます。顧客□ を読み込みます。

顧客□ (大)

□ は最大 80ピクセルまで許容されます。それより大きい□ は自動でこの大きさにサイズ変更されます。

4.6 インフォメーション

インフォメーションメニューの選択オプションは以下の通りです。



前回の抽出

前回の抽出に関するインフォメーション。



タイマー

1週間のタイマー設定が呼び出されます。ここにはすべてのスイッチオン・オフ時刻が表示されます。



サービス

WMF サービスの連絡先。
コーヒーマシンのシリアルナンバー。



カスタマーケア

コーヒーマシンのプログラムから行ったクリーニングとカスタマーケアの記録が表示されます。



浄水フィルタと加糖除去

浄水フィルタの残り容量と次回加糖抜ききのタイミングのインフォメーションが表示されます。

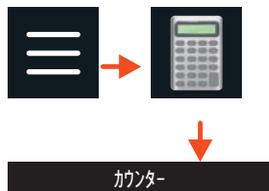


プロトコル

コーヒーマシン操作中やクリーニング中のイベントとエラーのジャーナル。



4.7 会計



カウンター

供給されたそれぞれの飲料のカウンターと合計飲料数が表示されます。

ジャーナルはUSB出力によって読みだすことができます。

会計		カウンター			
飲料		1	2	3	4
2 イスア レッツ マツキヤト		2	2	2	2
イスア レッツ		1	1	1	1

標準設定

カウンター 1 ~ 4 = 連続カウンター

⚠ 各カウンターを個別にマニュアルでリセット可能です。
(例:カウンター 1 = 毎日、カウンター 2 = 毎週)

ヒント

自動販売機

自動販売機として使用する際の取扱説明書を参照してください。

外部会計

ウェア-会計取扱説明書を参照してください。

無料設定

無料設定は請求単位オプションと併せて使用可能です。



無料設定

すべて無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

飲料は無料

選択オプション: 有効 無効

標準値: 有効 無効

ディスプレイ表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここにテキストを表示できます。(例:「割引」)。入力されたテキストはヘッドラインに表示されます。

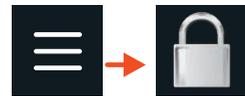
飲料ボタン表示

「すべて割引」が有効の設定になっている場合、ここに飲料ボタン用テキストを表示できます。

4.8 PIN権限

下記のエリアではPINコードを設定できます。

- クリーニング
- 設定
- 会計



PINには序列が設けられています。例えば、設定PINはクリーニングPINも兼ねますが、会計PINとしては無効です。

PINを割り当てないエリアは、PIN入力なしでアクセス可能です。PINを割り当てたエリアには、PIN入力なしではアクセスできません。

クリーニング PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア



設定PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア  タイマー
 飲料  システム
 操作オプション  言語
 会計（「削除」なし）  USB



会計PIN

有効なPIN入力すると、次の項目にアクセスできます：

 カスタマーケア  PIN
 飲料  タイマー
 操作オプション  システム
 会計（「削除」あり）  言語
  USB



会計 PIN を使用して他の PIN 番号を両方変更できます。会計 PIN を忘れた場合、サービス担当者によってのみ PIN をリセット可能です。

新しいPINを入力

アクセス許可 PIN が割り当てられたら、ここに PIN 番号を入力して新しい PIN を発行します。



4.9 タイマー

時刻/日付

ここでは現在の日付と時刻を設定します。

タイマー

ここで、タイマー機能をオン・オフを切り替えられます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

有効 タイマーの切り替え時間が有効になっています。

無効 タイマーの切り替え時間は作動しません。

タイマー予定表とタイマーの設定

すべてのオン・オフ時刻の概要。



スイッチを入れる時間の変更は日別表示でのみ可能です。

タイマー削除

削除マークで、あらかじめマーク[®]していたタイマーを削除できます。



タイマー日別概要

日間・週間予定表を切り替えます。日別概要には、当日のスイッチを入れる時刻が表示されます。



タイマーの入る時間を設定

タイマーを介してスイッチを入れられる以下の機能があります。

- ホットリフト
- Ecoモード[®]
- オフタイマー
- AutoCleanクリーニング[®]



 スwitchの入る時間の変更は過去に遡って適用はされず、変更を行った日時以降にのみ適用されます。

注意事項

- * 希望するタイマーの機能を選択します
- * 1日または複数の日にちを選択します
- * タイマー スwitch時間を設定します

スイッチを入れる時間はあらかじめ選択された日にちに対して設定されます。

確定後は設定された切り替え時間による週間予定表が表示されます。個々の時刻はこの週間予定表の中で任意に変更できます。

AutoCleanクリーニング

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

有効 AutoCleanクリーニングが「有効」に設定されている場合、AutoCleanのクリーニング時間を設定できます。クリーニングが自動開始するタイミングが設定されます。

マシンがクリーニング後スイッチを切るか、徹底システムクリーニングを開始するか選択します。また、ミルク飲料が徹底システムクリーニング完了後に解除されるかが設定されます。



> 所定の稼働日に対するオン/オフタイマーを作成します。

> この期間とクリーニングを組み合わせます。

例: 営業時間 月～金 8時～18時。

> オン/オフタイマーとクリーニングを7:30～18:30に設定します。

1日以上運転しない期間が続く場合にはその前に徹底システムクリーニングを設定することをおすすめします。

ヒント

安全上の注意 カタマーゲアに注意
▷ 83° -ジ

安全性と保証
▷ 127° -ジ

ホタルライト

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

有効 ホタルライトをタイマーによって自動的に割り当てることができます。



ホタルライト

カウント

ここでは、カウントのタイマー時間を設定可能にするかを設定します。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効




サマタイム

ここでは、サマタイムに自動で切り替えるかを設定できます。

リモートモジュールが取り付けられていなければ、メニューを利用できません。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効




時刻帯

ここではタイムゾーンを設定できます。




4.10 システム

クーラー

ミルク保管温度

ミルク保管温度はここで入力します。
カップ・アンド・クールの使用時、例は 10 °C 以下。

お知らせ表示

(お知らせの警告機能を搭載したクーラーが必要)

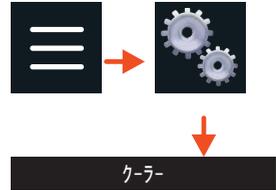
ミルクが空になった時に通知を起こすかをここで設定します。

空になった時の通知は、飲料ロックと関連づけられます。これは特にセルフサービスモードで重要です。支払われたばかりの飲料の完全な供給が保証されます。

温度センサー

(センサーを搭載したクーラーが必要)

ミルク温度が測定されます。



温度監視付
カップ・アンド・クールオプションで可能です。

品質チェック (ダ`イミックミルク)

ミルクシステムでのミルク温度変更、ミルクフォーム量変更、ミルクフォーム品質変更が外的に影響することがあります。

「品質チェック」メニューで基本設定を再度行えます。

- * 青いクリーンング`ホッパ`に冷水を満たす
- * ミルクフォームをつなげる
- * 容量が 500 ml の計量`カップ`を供給口に置く
- * `キャリブレーション`を開始する
- * 500 ml (+/- 20 ml) の計量`カップ`がいっぱいになったら、`キャリブレーション`は停止する

品質チェック

`プロ`グ`レス`ディ`イス`プレイ

選択オプション: ライン、サークル、`オ`

標準値: ライン

`プロ`グ`レス`ディ`イス`プレイ

ディ`イス`プレイと照明

照明

点灯色はここで設定します。
カラーサークルの三角形で希望の色を設定してください。
RGB数値による色の設定も可能です。

その他の選択オプション:

- 色の変更 ゆっくり
- 色の変更 標準
- 色の変更 速く
- `オ`

ただちに現在の設定が表示されます。

ディ`イス`プレイと照明



供給可能の場合の照明

- 側板 標準色

イベントの表示(通知)

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値:  無効

コーヒー豆が空になっているというメッセージなど。

有効 メッセージ表示中、照明の調整ができます。

メッセージ(イベント)の照明

- ・ イベントカー側板

パネルの照度

パネルの照度はここで設定します。

ディスプレイ照度は自動的に減少

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値:  有効

有効 照度減少が「有効」になっていると、飲料供給から5分後にパネル照度が自動的に減少します。

パネルの照度が暗くなっている状態でパネルに一度タッチすると、再び選択された照度に戻ります。その後もう一度飲料供給ボタンにタッチすると、その飲料の供給が始まります。

タッチキャリブレーション

タッチパネルのキャリブレーションを新たに行います。

パネルの背景

タッチパネルのカラーデザインを設定できます。

飲料:文字 + 色

ここで、文字サイズと色の変更を設定できます。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

浄水フィルター

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 無効

有効 浄水フィルターが取り付けられています。フィルタの容量と水の硬度の入力が必要です。

硬度の計測

測定した水の硬度を°dKH単位で入力します。

炭酸硬度テストキットはアクセサリと共に送られます。

 水の硬度を不適切に設定してコーヒーマシンを運転すると、多くの加圧が発生し、バルブの密閉性が失われるおそれがあります。これにより損害が生じても保証は適用されません。

水硬度測定

* 飲料水の水の硬度は、水道事業者に照会するか、付属品にあるWMF 炭酸硬度テスト(説明書付き)を使用して検出する


浄水フィルター

注意事項

弊社は原則浄水フィルターの使用を推奨しております。適切な浄水フィルターの選択につきましては、担当のWMFサービスパートナーがご相談に応じます。

注意事項

総硬度の計測

ここには総硬度を入力します。

フィルタ容量

フィルタ範囲(単位: リットル)はここで入力します。

エコモード

ここではエコモードを有効にできます。

選択オプション: 有効 無効

標準値: 無効

スイッチオフ

オフオプション。なし 30 min/60 min/90 min/120 min/
150 min/180 min 不可。

標準値: いいえ

温度

ここではボイラの水温を設定します。
(コーヒー抽出水温度)



エコモード

▷エコモード
80° -ジ



温度

凍結防止/輸送準備

ここでホッパ給水システムの部分的な排出のルーチンが始まります。

部分的な排出作業は、特に冬の時期に運送業者や宅配業者による輸送を行う前に必要で、損害を防ぐことにつながります。


凍結防止/輸送準備

挽き目設定

挽き目はディスプレイ上で設定します。

- 挽き目ゲインダ - 1
- 挽き目ゲインダ - 2

小さい値 -> 細挽き

高い値 -> 粗挽き

0.25ごとに設定可能です。

設定ごとに最大で半分の挽き目を設定できます。

各設定を終えたら豆挽きを行います。

教育を受けた専門社員およびサービス担当者のみ使用可能。


挽き目設定

ホッパー

ここでは使用する豆とパウダーの種類の名前を記録します。

通常、ここではエスプレッソとカフェクリームが対象です。


ホッパー

2基のゲインダと1基のパウダーホッパーを備えているマシンで有効です。

Bluetooth (オプション)

この機能ではオプションのWMF Bluetoothスティックが必要です。

選択オプション: • 有効 • 無効

標準値: 有効

* Bluetoothはここで有効にします

* 操作パネルを開く

* WMF Bluetoothスティックを操作パネルの背面に挿し込む

* コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる


Bluetooth

S-M-L機能

ここではS-M-L機能が有効です。
マークとテキストは変更できません。飲料サイズは標準サイズ(M)を基本にしますが変更可能です。

選択オプション: ・ 有効 ・ 無効

標準値: 有効

スモール

新たに有効にするサイズの飲料レベルのデフォルト変更係数。

標準値: 75%

ラージ

新たに有効にするサイズの飲料レベルのデフォルト変更係数。

標準値: 125%

シロップ (オプション)

ここでは、シロップに名前を付けて、マークを割り当てることができます。

さらに、注ぐ量の選択を有効にできます
(シングルダブル大)。

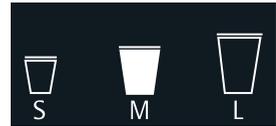
栄養成分情報

ここではグラインダ、ポーション、ミルク、ミルクフォーム毎に栄養成分値および材料に関する詳細情報が記録されます。

概要が確認できます。



S-M-L



カップ容量 S/M/L
▷ソフトウェア
▷飲料
46° -ジ

ヒント

飲料サイズ (S/M/L) はレベルで定義付けし、飲料ボタンで直接利用可能です。



シロップ

シロップステーションに利用可能な詳細設定オプション
▷シロップステーション取扱説明



栄養成分情報

カップ 検出 (オプション)

カップのセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。




カップ 検出

供給位置の訂正

設定範囲： -20 mm ~ +60 mm

- → カップとの距離が小さくなります

+ → カップとの距離が大きくなります

刻み： 5 mm

標準： 距離: 10 ~ 15 mm

許容カップ 高さ

S/M/Lが無効になっている飲料のカップの高さの許容範囲はここで調整します。

高さはレシ°の飲料メニューで設定されます。ここで設定される許容範囲は、飲料が供給されるこの高さを正確に指定するものです。

そのため、ここには必要な許容範囲が入力されます。

設定範囲： 0 mm ~ ±30 mm

刻み： 約 7.5 mm

モード

4種類のモードをここで設定します。

オフ

機能は無効になっています。

存在検知

カップのセンサーがノズル下に容器があるかを検知します。飲料が選択されると、ノズルが自動で選択した飲料に設定した高さまで移動します。

カップ 高さ設定
▷ソフトウェア
▷飲料
53° -ジ

オフ - カップの高さに移動

カップのセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。続いて、ノズルが設定したカップの上部縁までのギャップになるまで移動します。

サイズ の事前選択

カップのセンサーが供給口下に容器があるかを検知し、その高さを計算します。この値に基づき、該当する飲料のみがディスプレイに表示されます。有効なS/M/Lのプレ選択でセンサーがこのプレ選択を適用します。

サイズ 設定S/M/L

「サイズ プレ選択」モード

ディスプレイには現在置かれているカップがマークで表示されます。

さらに、飲料サイズごとに最小設定カップと最大設定カップが表示されます。



水平ラインの両方が飲料サイズ間の境界を表しています。

矢印マークで、このラインをずらすことができます。

カップ サイズ を削除

- *  をタッチする
- * 希望するサイズ か、または「全サイズ」を選択します
選択された項目が削除されます。
カップ のサイズ が削除されます。

カップ のサイズ を追加

- * 新たなサイズ のカップ を置きます
- * 希望するサイズ (S/M/L) を指定します
- *  をタッチする

飲料のサイズ 表記変更

- ▷ システム
- ▷ S/M/L
- 75ℓ -ジ

顧客のタブラー

このオプションは、SBE-ドで顧客が再利用可能なタブラーを使えるようにするものです。「顧客のタブラー」が有効になっていると、開始画面が変わります。ここではカップ 検知メニューで開始画像を希望のものに設定できます。



顧客のタブラーを使う場合の開始画像

「持ち帰り」の使用

- * **持ち帰り** をタップします
飲料選択ディスプレイが表示されます。
- * 希望する飲料を選びます
希望する飲料のサイズ を尋ねられます。
- * 適切な飲料サイズ を選択します
飲料が供給されます。

「店舗」の使用

- * **店舗** をタップします
飲料選択ディスプレイが表示されます。
- * 希望する飲料を選びます
カップ センサーは置かれたタブラーサイズ を自動で検知し、飲料がS/M/L設定に対応して指定されます。



飲料サイズ の選択

デジタルソリューション



デジタルソリューション

リモートアクション

WMF Coffee Connectで送られたパッケージメディアが直接インストールされていない場合は、ここで後から実行できます。

スマートリモート

WMFサービスはスマートリモートを有効化できます。その後、この機能をここで有効化できます。

4.11 言語

パネル上で使用する言語を設定します。
使用できる言語が英語で表示されます。



4.12 コーヒー

コーヒーが「有効」になっているとき、最終の飲料供給終了から10分後にスチームホースの温度が下がります。飲料ボタンは点灯したままです。温度が下がっている状態でミルク入り飲料を供給するときは、コーヒーマシン加熱のために15秒間ほど必要になります。飲料作成は加熱の後に始まります。



▷ コーヒー
73°C - 75°C

コーヒー

選択オプション: ・ 水 ・ 粉 ・ タイマー

標準値: 水

ここではコーヒーを有効にできます。



コーヒー表示

供給可能表示では、ヘッドにコーヒーのアイコンが表示されます。2つのステータスがあります。

コーヒー「有効」

コーヒーマシンは現在温度低下段階にあります。



コーヒー「レイ」

コーヒーは待機時間に応じて制御され、最後に飲料供給してから10分後に有効になります。



クイックスタート

コーヒー設定が「有効」である場合には、コーヒーのアイコンが供給可能表示に表示されます。

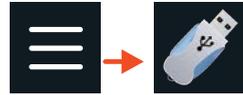


アイコンにタッチする場合、コーヒーがすぐに有効になります。

アイコンが「有効」に切り替わります。

4.13 USB

USB接続口からはデータの交換が可能です。
USBスティックが差し込まれると、機能がすぐに有効になります。
USB接続口は操作パネル裏側の左上の、カバーの背後にあります。



レシポをロードする

ここでは、USBスティックに保存されているレシポがコーヒーマシンにロードされます。



飲料のマークをロードする

USBスティックから飲料の写真またはマークを読み込みます。



レシポの保存

ここではコーヒーマシンの最新のレシポがUSBスティックにエクスポートされます。



レシポをPDFファイルとしてセーブする

有効なレシポ、すべての顧客レシポ、またはすべての工場設定済みレシポをPDFファイルとしてエクスポートできます。



カウンターのエクスポート

ここではコーヒーマシンの最新のカウンターステータスがUSBスティックにエクスポートされます。



HACCPイクスポート

実行されたクリーニングはプロトコルに記録され、ここにHACCP実施の証明としてイクスポートされます。


HACCPイクスポート

データのバックアップ

ここではマシンのデータ、飲料のデータ等の設定データがUSBスティックに保存されます。


データのバックアップ

データをロードする

マシンデータや飲料データなどの保存されているデータは、USBスティックからコーヒーマシンにロードされます。(PINで保護可能)


データをロードする

言語をロードする

利用できる場合には、他のパネル言語をUSBスティックからコーヒーマシンにロードします。


言語をロードする

ファームウェアの更新

サービスエンジニア専用。


ファームウェアの更新

5 加ターケ

5.1 安全上の注意事項 加ターケ

コーヒーマシンが正常に作動し、コーヒの品質をいつでも最適なものにするためには、定期的なクリーニングは不可欠となります。

健康被害のおそれ/衛生面

- ミルクは非常に傷みやすい食品です。ミルクシステムの中で細菌が繁殖して健康に悪影響を与える恐れがあります。
 - > ミルクシステムは毎日クリーニングしてください。
 - > さらにプラグ・アクト・クリーンを装備していないコーヒーマシンでは、営業終了後、1日1回コック供給口の汚れをふき取ってください。
 - > さらにプラグ・アクト・クリーン装備型のコーヒーマシンでは、営業終了後、1週間に1回コック供給口の汚れをふき取ってください。
 - > ミルクホースは定期的に交換してください。
 - > ミキサーホースは定期的に交換します。
 - > 全ての衛生面の注意事項に従ってください。
 - > HACCPクリーニングコンセプトに従ってください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

健康被害のおそれ/衛生面

- 使用停止中のコーヒーマシンの中で細菌が繁殖する恐れがあります。
 - > 数日間運転を停止する場合、運転停止前と運転再開時にすべてのクリーニングを行ってください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

健康被害のおそれ/衛生面

- すべての洗剤はクリーニングプログラム用に最適に調整されています。
 - > WMFのクリーニング剤および加除除去剤だけを使用してください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中にコヒ[®] 供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > クリーニング中は、訓練を受けていないスタッフや子どもはコーヒーマシンから距離をとるように注意してください。
- > クリーニングの前には、必ず「クレンジック」でタッチパネルをロックしてください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



タ[®] イミックミルク

ミルクの割合を含んで飲料が 119 分全然供給されない場合、自動ミルクシステムリンスを起動して新しいミルクを補充します。

注意事項



注意事項

- 次にコーヒーマシンの電源を入れる際、ミルクが再充填されこれを以てクリーニングプログラムが完了します。

注意事項

5.2 クリーニング 頻度の概要

カスタマーケア							説明
毎日	毎週	定期的	自動	メッセージ			
クリーニング プログラム							▷86° -ジ°以降
X					システムクリーニング°	○	
	X				徹底システムクリーニング° (AutoClean)	○	
X					ミルクシステムクリーニング°	○	
X			X		フォーマーのリンス	○	
X					ミキサーリンス*	○	
				X	カキ除去		
			X	X	FFC フィルター交換*	○	
手動クリーニング°							
X					操作パ° ネルクリーニング° (クリーンロック)	○	
X					コーヒーカス受けのクリーニング°		
		X			抽出装置のクリーニング°		
	X				水タンクのクリーニング°		
X					ト° リップ° トレ° のクリーニング°	○	
X					ハウジング° とカップ° センサー° をクリーニング°		
X					ミルクシステムをクリーニング°、ベ° -シックミルク		
	X				ミルクシステムをクリーニング°、フ° ラグ° & クリーン		
	X				ミルクシステムをクリーニング°、イ° -ジ° -ミルク		
	X				ミルクシステムをクリーニング°、タ° イミックミルク		
(X)	X				ミキサー° のクリーニング° *	○	
		X			コーヒー豆ホッパ° -のクリーニング°		
		X			パウダ° -ホッパ° -のクリーニング° * *		



▷96° -ジ°以降
▷93° -ジ°以降

▷101° -ジ°
▷102° -ジ°
▷102° -ジ°
▷105° -ジ°
▷105° -ジ°
▷106° -ジ°
▷94° -ジ°
▷94° -ジ°
▷94° -ジ°
▷94° -ジ°
▷109° -ジ°
▷110° -ジ°
▷111° -ジ°

- 毎日 = 最低毎日1回、必要に応じて随時
- 毎週 = 毎週1回クリーニング°
- 定期的 = 必要に応じて定期的に実施
- 自動 = 自動プログラム
- メッセージ = パ° ネルでの通知後
- (X) = 汚れがひどい場合は毎日
- * = オ° ション(装備により異なる)
- 説明 = メニューの説明▷「ソフトウェア」▷「カスタマーケア」使用可能

5.3 クリーニングプログラム

5.3.1 システムクリーニング

システムクリーニングは自動クリーニングプログラムです。ミルクシステムごとに、WMFクリーニングタブレット(または液体)でコーヒーマシンのコーヒーシステムをクリーニングします。

ミルクシステムクリーニングとミキサーリンスはシステムクリーニングの一部です。お湯のFFCは必要に応じてシステムクリーニングの一環として同様にクリーニングされます。

合計で約10分かかります。

動画による説明

▷メインメニュー

▷カスタマーケア

▷説明

▷シロップステーションのクリーニング手引き



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中に冷水供給口と熱湯の供給口から高温のクリーニング液と熱湯が出ます。
- 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
- > クリーニング中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > 洗剤は絶対に飲まないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照

▷7ページ以降



クリーニングプログラムはパネルによってシステムクリーニングの各ステップをガイドします。
表示される通知に従ってください。

注意事項

システムクリーニング® (ハーフシックミルク)

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
 - * **システムクリーニング®** をタッチする
- 次の確認メッセージが表示されます:「クリーニング® 後スイッチを切りますか?」
- **はい** を確定すると、コーヒーマシンのスイッチはクリーニング® 後にオフになります。
 - **いいえ** で確定すると、クリーニング® 後にコーヒーマシンはそのままになります。
- * 希望するオプションを選択する
 - * パネルに表示される指示に従って操作



クリーニング® 中に、少量の洗浄水がコーヒュ受けに達することがあります。これは故障ではありません。

システムクリーニング® (ハーフシックミルクとプラグ・アント・クリン)

プラグ・アント・クリン仕様のコーヒーマシンでのシステムクリーニング® では、クリーニング® にプラグ・アント・クリンアダプターを使用します。

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **システムクリーニング®** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作



システムクリーニング (イージ -ミルク/ダ イミックミルク)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり



- クリーニング中、熱いクリーニング液がホッパ -内に注がれます。
> クリーニングホッパ -はクリーニング後に注意して中身を空にします。



クリーニングホッパ -は熱いままクーラーに置いてはなりません。クーラーが破損する恐れがあります。

イージ -ミルク/ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンのシステムクリーニングでは、クリーニングに青色の特別なクリーニング容器が必要です。

開始

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **システムクリーニング** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

システムクリーニング (AutoClean)

毎日のシステムクリーニングはAutoCleanにより完全自動で行われます。青いクリーニング容器はこの時にはもう必要ありません。

マシンは必要な量のクリーニングタブレットを完全自動で投入します。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
 - * **システムクリーニング** をタッチする
 - * パネルに表示される指示に従って操作
- オプションで、システムクリーニングはタイマー設定が可能です。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降



AutoCleanクリーニング
▷ソフトウェア
▷タイマー
67ページ

徹底システムクリーニング (AutoClean)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- プラグアンドクリーンアダプターがクリーニングなし洗浄中に外されると、熱湯やスチームが漏れ出すことがあります。
- ▷ プラグアンドクリーンアダプターを、クリーニングなしクイック洗浄中に引き抜いてはいけません。

開始

週に一度、または休止期間が1日より長く設けられる場合は、徹底システムクリーニングを実施する必要があります。

- * カスターケアメニューを呼び出す
 - * **徹底システムクリーニング** をタップします
 - * パネルに表示される指示に従って操作
 - * コフタのミルクホースを取り外します
 - * ミルクホースをマシンのプラグアンドクリーンソケットにつなぎます
マシンは必要な量のクリーニングタブレットを完全自動で投入します。
- オプションで徹底システムクリーニングはタイマー設定が可能です。



プラグアンドクリーンとミルクホースの正しい取り付け箇所にご注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



注意事項

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

保証の章にご注意
▷127ページ以降

クイック洗浄 (AutoClean)



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- プラグアンドクリーンアダプターがクリーニングないし洗浄中に外されると、熱湯やスチームが漏れ出すことがあります。
- プラグアンドクリーンアダプターを、クリーニングないしクイック洗浄中に引き抜いてはいけません。

週に一度、ミルクホースをクイック洗浄で洗浄してください。

* コンテナのミルクホースを取り外します

* ミルクホースをマシンのプラグアンドクリーンソケットにつなぎます
クイック洗浄は、プラグアンドクリーンアダプターをロックすると自動的に開始します。

クイック洗浄が完了すると、プラグアンドクリーンソケットのLEDが点滅します。



接続されている間は、新しいミルクが供給される度に、クイック洗浄が実施されます。

時間: 1~2分



プラグアンドクリーンとミルクホースの正しい取り付け箇所にご注意してください。

注意

安全性についての章を参照
▷76ページ以降



ヒント

注意事項

安全性についての章を参照
▷76ページ以降

保証の章にご注意
▷127ページ以降

5.3.2 ミルクシステムクリーニング



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり



- ・ リンス中はコンテ 供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

ミルクシステムクリーニングは単独で開始できます。これはミルク飲料の供給をしばらく行っていなかった時に有効です。

ミルクシステムクリーニングは、ミルクホースとミルクノズルおよびコンテ 供給口をリンスします。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミルクシステムクリーニング** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

動画による説明

- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明

5.3.3 フォーマーのリンズ



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり



- リンズ中はコルビ供給口から熱湯が出ます。
> リンズ中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降

プラグ・アンド・クリーンまたはイージーマイク仕様のコーヒーマシン用に、ミルクフォーマーのリンズ機能があり、これは必要に応じて開始できます。また、ミルクフォーマーのリンズも自動的に行うことができます。最後のミルク飲料供給が終わって3分経つと、自動で開始します。自動的にミルクフォーマーのリンズが始まる前に、ブザー音が鳴ります。ミルクフォーマーのリンズが有効になっているときは、飲料の入ったカップをコルビ供給口の下に置かないでください。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **フォーマーのリンズ** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

動画による説明

- ▷メインメニュー
- ▷カスタマーケア
- ▷説明

5.3.4 フォーマーのリンズ(ダインミックミルク)

ダインミックミルク仕様のコーヒーマシンでは、ミルクフォーマーの自動リンズは2時間ごとに行われます。

5.3.5 ミキサー-リンス



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり



- ・ リンス中はコック供給口から熱湯が出ます。
- > リンス中に絶対に手などを供給口の下へ入れないでください。

ミキサーのリンスは単独で開始できます。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
- * **ミキサー-リンス** をタッチする
- * パネルに表示される指示に従って操作

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

動画による説明
▷メインメニュー
▷カスタマーケア
▷説明

5.3.6 FFCフィルター-交換



健康被害のおそれ/ 火傷のおそれあり

- > フィルターを通してコーヒーを淹れた直後はフィルターが高温になっています。
- > フィルターがセルは交換前に少し冷ましてください。

フィルターは100回抽出ないし72時間経過後、交換が必要です。

- * カスタマーケアメニューを呼び出す
 - * **FFCフィルター-交換** をタップします
- ディスプレイで操作手順が始まります。
- * ディスプレイの案内に従います
- このメニューでは、現在使用しているフィルターであと何回飲料を淹れることができるか、フィルター交換まであと何時間残っているかを表示できます。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

5.3.7 ミルクシステムの清掃の概要

	ミルクシステム			
	ベ-シックミルク	プロラク・アント・クリーン	イ-ジ-ミルク	ダイナミックミルク
自動クリーニングプログラム ▷86°-ジ				
ミルクシステムをマニュアルでクリーニング ▷106°-ジ				
自動的なミルクフォーマーの rins		X	X	X
システムクリーニング、ベ-シックミルク	X			
システムクリーニング、プロラク・アント・クリーンアダプターを使用		X		
システムクリーニング、クリーニング容器を使用			X	X
毎日、ミルクシステムをマニュアルでクリーニング	X			
毎週、ミルクシステムをマニュアルでクリーニング		X	X	
定期的、コンヒ供給口の外側を手作業でクリーニング	X	X	X	X

 ミルクフォーマーの rins が「無効」に設定されている場合、プロラク・アント・クリーンまたはイ-ジ-ミルク仕様のマシンでも手作業によるミルクシステムクリーニングを毎日実行しなければなりません。

注意事項

5.4 クリーング タブレットを補充する (AutoClean)

コーヒークリーニング 顆粒

- * マニュアル投入口のフリップを開ける
- * 緑色のフリップを前にまくります
- * 顆粒計量装置をマシンから取り出し、上下逆さにします
- * 回転動作で計量装置を開きます
- * 空になったクリーニング 顆粒のパックを取り出し、新しいパックを設置します



ミルクシステムクリーナー

- * 空になったミルクシステムクリーナーボトルのクリーニングアダプターを外します
- * WMFミルクシステムクリーナーの新しいボトルをつなぎます



5.5 加圧除去



健康被害のおそれ/ 刺激・火傷のおそれあり



- クリーニング中および加圧除去中は、コンヒ® 供給口から高温のクリーニング液または加圧除去液が流れ出ます。
 - 高温になった液体によって皮膚が刺激を受けたり、火傷のおそれがあります。
 - カスタマーケア用製品や加圧除去剤に触れたり、誤って飲み込んだりすると、健康を損なうおそれがあります。
- > クリーニング中または加圧抜き中は絶対に供給口の下に手などを入れないでください。
- > クリーニング液または加圧除去液は、絶対に誰も飲まないようにしてください。
- > 加圧除去液ボトルにある製品情報をしっかり把握してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降



火傷の危険



- 飲料とスチームの供給中は、高温の液体が供給口から排出されます。このため、供給口や、隣接エリアの表面が高温になります。
- > コーヒーマシンが加熱されている場合、まずクリーニングルーチンが開始されます。クリーニングルーチンは5～10分かかります。
- > クリーニングルーチンが終了するまで待ちます。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷7ページの以降



- WMFのカスタマーケア用製品は材料用に合わせて調整され、試験されています。別の加味除去剤を使用すると、コーヒーマシンに損傷が生じるおそれがあります。
 - 加味抜きにはWMFの加味除去剤だけを使用してください。
- 他の加味除去剤を使用することにより損害が発生しても、保証は適用されず、補償請求権は失われます。

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降

水の硬度、水の流量および浄水フィルターをセットするかどうかにより、加味抜きが必要な時期が決まります。この時期はWMF 1500 S+によって算出され、表示されます。

加味抜き工程は以下の4つに分かれています。

- クーリングルーチン(マシンが加熱されている場合)
- 準備
- 加味除去
- リンス



加味除去の全所要時間 約80分。
プログラムは中断してはいけません。

加味抜きには以下が必要になります：

- 2本のWMF加味除去液 (各0.75リットル)
- 3本の温かい飲料水 (合計2.25リットル)
- 5リットルの受け容器



パネルにはプログラムの説明がステップごとに表示されます。スタートにより、手順が開始されます。この手順を守らなければなりません。表示される通知に従ってください。

重要

加味抜きプログラムの呼び出し

- * カスタマーケアメニューの呼び出し
- * **加味除去** をタッチする
- * さらに 5.5.1 または 5.5.2 を実施
- * パネルの通知に従う

▷メニュー
▷カスタマーケア
▷加味除去

5.5.1 水タンクによるコーヒーマシンの加圧除去

クーリングルーチン(マシンが加熱されている場合)

コーヒーマシンが加熱されている場合、まずクーリングルーチンが開始されます。

クーリングルーチンは5～10分かかります。



火傷の危険



- クーリングルーチン中は高温の蒸気が放出されます。
- 最後のリンスの後、スチームボイラーが加熱されます。熱湯は膨張し、蒸気として流れ出ます。
 - > 加圧除去の間、供給口の下に触れないでください。
 - > 高温の供給口に触れないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

加圧除去

- * 水タンクを外す
 - * 浄水フィルターがある場合には外す
 - * 加圧除去液と温水を水タンクに入れ、混ぜ合わせる
 - * 氷点下で保管していたために結晶が生じている場合には、加圧除去液内にあるすべての結晶が分解されるまでかき混ぜます
 - * 加圧除去液を入れた水タンクをセットし、パッドで確定する
 - * 5リットルの受け容器をコーヒー供給口と熱湯供給口の下に設置する
 - * コffee供給口を下げる
- 加圧除去が開始されます。
セグメントの時間は約40分。
- * 受け容器を空にする
 - * 水タンク内に残っている加圧除去液をすべて排出する
 - * 水タンクをリンスし、最大レベルまで冷水を充填する

保管中に加圧除去液で結晶が形成される場合があります。
この結晶はコーヒーマシン内に達してはけません。
理想的な水温は約37℃です。

製品注文番号
▷付録
アクセサリとスプレッドシート
132ページ

- * 水タンクを再びセットする
- * 受け容器を下に置く

リンス

リンスが開始されます。

セグメントの時間は約30分。

- * 必要に応じて新鮮な冷水を補充する
- * 受け容器を空にする
- * 水タンクを空にする
- * 浄水フィルターがある場合にはセットする
- * 水タンクを再びセットする

加圧除去は完了しました。

終了したことがパネルに表示されます。

5.5.2 水道水接続によるコーヒーマシンの加圧除去

クリーニングルーチン(マシンが加熱されている場合)

コーヒーマシンが加熱されている場合、まずクリーニングルーチンが開始されます。

クリーニングルーチンは5～10分かかります。



火傷の危険



- クリーニングルーチン中は高温の蒸気が放出されます。
- 最後のリンスの後、スチームボイラーが加熱されます。熱湯は膨張し、蒸気として流れ出ます。
 - > 加圧除去の間、供給口の下に触れないでください。
 - > 高温の供給口に触れないでください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
 ▷78°-9°以降

加タ除去

- * 水道のメインコックを閉める
- * 水タンクを外す
- * ドリップトレーを水タンクカップリング®で反時計回りに回し、取り外す(マイクスドライブ®、図1と2参照)
- * 加タ除去液と温水を水タンクに入れ、混ぜ合わせる
- * 氷点下で保管していたために結晶が生じている場合には、加タ除去液内にあるすべての結晶が分解されるまでかき混ぜます
- * 加タ除去液を入れた水タンクをセットし、パ°ルで確定する
- * 5リットルの受け容器をコーヒー供給口と熱湯供給口の下に設置する
- * コヒ°供給口を下げる
加タ除去が開始されます。
セグメントの時間は約40分。
- * 受け容器を空にする
- * 水タンク内に残っている加タ除去液をすべて排出する
- * 水タンクをリンスし、最大パ°ルまで冷水を充填する
- * 水タンクを再びセットする
- * 受け容器を下に置く

水タンクカップリング®は水タンクの背後にあります。

▷図1

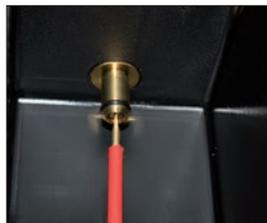


図1



図2

保管中に加タ除去液で結晶が形成される場合があります。この結晶はコーヒーマシン内に達してはいけません。

理想的な水温は約37℃です。

製品注文番号

▷付録

アクセサリとスハ°パーツ

132ハ°-ジ°

リンス

リンスが開始されます。

セグメントの時間は約30分。

- * 受け容器を空にする
 - * 水タンクを空にして、乾かす
 - * シールプラグを再びねじ込む(マイクストライバ -、図1と2を参照)
 - * 水タンクをセットする
 - * 受け容器を下に置く
 - * 水道のメインコックを開く
- 追加リンスは給水系によって行います。
 加圧除去は完了しました。
 終了したことがパネルに表示されます。

5.6 手動クリーニング

WMFカスターケアプログラムの注
 文番号
 ▷アクセサリとスプレッ
 132ページ以降

5.6.1 操作パネルクリーニング (クリーンロック)

- * **クリーンロック** をタッチする
- 15秒間のカウントダウンが始まります。
 この間にタッチパネルのクリーニングを行ってください。
 最後にタッチしてから15秒後に、タッチパネルが再び有効になります。



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
- > クリーニングの前には、必ず「クリーンロック」でタッチパネルをロックしてください。

注意

安全性についての章を参照
 ▷7ページ以降



- クリーニング中にパネル表面に傷をつけるおそれがあります。
- > パネルは必ず湿らせた布でクリーニングしてください。洗剤は使用しないでください。
- > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
- > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

重要

保証の章に注意
 ▷127ページ以降

5.6.2 コーヒーが受けのクリーニング (挽いた豆のスライド / オフ ショ)

- * コーヒーが受けを空にし、流水で洗浄
- * 湿らせた布でクリーニング する
- * コーヒーが受けは乾燥させてから再び設置する



重要

保証の章に注意
▷127ページ以降



- > コーヒーマシンのシューターとドリッポトレイの目皿を毎日クリーニングしてください。
- > 絶対に力を入れないでください!破損のおそれがあります。

5.6.3 抽出装置のクリーニング



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- 抽出装置の取り出し時に、手を挟むおそれがあります。
- > コーヒーグ ラインダ -や抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。
- > 抽出装置はしっかり持ち、慎重に取り出します。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

抽出装置は必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨:毎月1回。

- * コーヒーマシンのスイッチがオフになるまで、お/オフ ボタンを押す
 - * 主電源からプラグを抜く
 - * コレバ 供給口を一番上に上げる
 - * コーヒーが受けを外す
 - * ドリッポトレイを外す
- 抽出装置に自由に手が届くようになっています。



火傷の危険



- 抽出装置はスイッチを切った直後はまだ高温になっている場合があります。
- > コーヒーマシンはクリーニングの前に冷ましてください。



- 抽出装置は下へ滑り落ちる場合があります。
- > 抽出装置はいつもしっかり保持してください。
- > 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

- * 片手で[※]外内の抽出装置の下側をつかみ、ロックを外して保持する(図1)
- * 抽出装置をゆっくり下へが[※]倒して傾け、前方に引き出す
- * 抽出装置をしっかり保持し、取り外す(図2)

アクセサリのマルチツールを使用します。

- * 抽出装置のヘッドのねじ部を、スクレーパーが前側の位置にくるまで反時計回りに回す(図3)
- * ホッパ - [1] を軽く押し付け、上に引き抜く
- * スプリング を外へ引き、下に押し付ける
これにより投入用スライドのロックが解除されます。

- * 投入用スライド [2] を上に置む
- * 抽出用ストレーナーを流水で、または布で拭いて清掃する

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降



図1



図2



図3



図4

- * コーヒー缶を刷毛またはブラシで取り除く
- * 抽出装置を流水ですすぐ

! 考えられる損傷

- 抽出装置はクリーニング剤または食器洗浄機で破損するおそれがある
 - > 抽出装置のクリーニングには、水だけを使用します。
 - > 抽出装置は絶対に食器洗浄機で清掃しないでください。

* 抽出装置は布で拭いて乾かす
コーヒーマシンへの取り付け前に、完全に乾かします。
ダケのコーヒー缶を取り除きます。

- * コーヒー粉を手前に拭き取るか、掃除機で吸引する
- * スプリングを投入用スライドに掛ける(図5)
- * ホッパー - [1] を軽く押し付け、再び設置する
ガイドに注意してください。

乾いた抽出装置を再び取り付けます。

- * ロックを押ししたままにし、抽出装置をダケの外壁に当たるまで戻す
- * 抽出装置は、ロックがかかるまでまっすぐ上に押す
- * コーヒー缶受けをセットする
- * ドリップトレイをセットする

- ## ! 抽出装置をスムーズにセットできない場合:
- > 抽出装置がガイド内にはまるまで、抽出装置のヘッドのねじ部をマルチツールで少し左または右へ回します。
 - > 絶対に力を入れないでください! 破損のおそれがあります。

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降



図 5



抽出用スライド

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降

5.6.4 水タンクのクリーニング

水タンクは毎週入念に清潔な飲料水で洗い流します。



5.6.5 ドリップトレのクリーニング



火傷のおそれ



- ・ ドリップトレには高温の液体がたまっていることがあります。
- ・ クリーニング後などでドリップトレを正しくはめ込んでいない場合、高温の液体で火傷を負うおそれがあります。
 - > ドリップトレは慎重に動かしてください。
 - > 再び設置するときには、水が不意にこぼれないように注意してください。
 - > ドリップトレが正しく取り付けられているか、必ず確認してください。

⚠ 注意

安全性についての章を参照
▷78ページ以降

- * ドリップトレの前部外側を軽く持ち上げてドリップトレを外す
- * ドリップトレを入念にクリーニング
- * ドリップトレを最後に清潔な飲料水でリンスする
- * ドリップトレを乾かし、元の位置に装着



手順
▷ソフトウェア▷カスタマーケア
45ページ

ドロップステーションのオプションを使う
▷ドロップステーションのクリーニング手順

5.6.6 ハウジングとカップセンサーをクリーニング



- クリーニング中にパネル表面に傷をつけるおそれがあります。
 - > 研磨剤の類はクリーニングで使用しないでください。
 - > 低刺激性洗剤だけを使用してください。
 - > 強アルカリ性やアルコールを含んだ洗剤、または脱脂洗剤は使用しないでください。
 - > クリーニングには柔らかい布を使用してください。
 - > 湿らせたマイクロファイバークロスの使用をお勧めします。

金属表面(マット加工)の手入れには、WMF Purargan® クリーナーの使用をお奨めします。

- * オン/オフのスイッチでコーヒーマシンのスイッチを入れます
- * コーヒーマシンはクリーニングの前に冷ましてください
- * 冷ましたコーヒーマシンの外装を湿らせたでクリーニングする
- * 柔らかいタオルで乾拭きします
- * センサーを湿った布でクリーニングします

5.6.7 ミルクシステムをマニュアルでクリーニング

ミルクシステムをマニュアルでクリーニング (パネリックミルク/イージ-ミルク)



火傷のおそれ

- 誤って飲料が供給されてしまうと、怪我のおそれがあります。
 - > クリーニングの前には必ずコーヒーマシンのスイッチを切ってください。
 - > 主電源からプラグを抜く。

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降

注意事項

耐性に問題があるため、アルカリ性洗剤は使用しないでください。アセトン、炭素、四塩化炭素、塗料用シンナーまたは5%を超えるアルコールを含む溶液、アモニア、ベンゼン、グリセリン、キシレン、研磨剤、脱脂洗剤、ガラス用の強力な噴霧式洗浄剤のような溶剤も使用しないでください。

パネルは必ず湿らせた布でクリーニングしてください。洗剤は使用しないでください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降

動画による説明

▷メインメニュー

▷カスタマーケア

▷説明

健康被害のおそれ

- WMFミルクシステムの洗剤が目に入ると、目に深刻な傷を負う恐れがあります。
- > WMFミルクシステムの洗剤が絶対に人や動物の目に入らないようにしてください。

注意

安全性についての章を参照
▷7ページ以降



- > 手作業でミルクシステムの清掃を行う前に、ミルクシステムのシステムクリーニングを実行する必要があります。システムクリーニングにより、システム内に残るミルクの残りを取り除きます。

重要

保証の章に注意
▷127ページ以降

- * コンビ® 供給口背後のレバーを引く
 - * 解除したコンビ® 供給口を取り出す
 - * 必ずベークミックミルクを使用: ミルクホースをミルク容器から取り出し、コンビ® 供給口から外す
 - * ミキサホースを外す (備わっている場合)
 - * 5 mlのWMF特製クリーナーまたは専用のクリーニングタブレットを500 mlの温水に混ぜます
 - * コンビ® 供給口を分解
 - * 必ずベークミックミルクを使用: ミルクホースの終端をクリーニング液に入れる
 - * 必ずベークミックミルクを使用: 残りのミルクホースを、長さに応じてクリーニング液に入れる
- これにより、ミルクホース内に気泡が残らないようにします。



* コンビ® 供給口の部品をクリーニング液の中に入れる
(3部品)

すべての部品がクリーニング液の中に完全に浸っていない
なければなりません。

* 5時間経ったら、ブラシ® ですべての部品を入念に
クリーニングする

* コンビ® 供給口のすべての部品を清潔な飲料水で入
念にリンスする

* 必ずベ-シックミルクを使用: ミルクホースを入念にリンスする

* ミキサーホースを入念にリンスする(備わっている場合)

* ミキサーホースを差し込む

* コンビ® 供給口を組み立てる

* コンビ® 供給口を装着

* 必ずベ-シックミルクを使用: ミルクホースを差し込む



コンビ® 供給口の手動クリーニング (ダ イミックミルク)

! ダ イミックミルク仕様のコーヒーマシンのミルクフォーマーは取り
外しできません。

定期的にコンビ® 供給口の汚れを軽く湿らせた布で
拭き取り、供給口を適切なブラシ® でクリーニングしてく
ださい。

ブラシ® アンド クリーンソケットを洗浄する (AutoClean)

ブラシ® アンド クリーンソケットを必要に応じてブラシ® で清掃し
ます。

重要

保証の章に注意
▷ 127ページ以降

5.6.8 ミサ-のク-ング

使用するパ-ウダ-に応じて、頻繁に清掃します。



火傷のおそれ

- ミサ-ホ-スがしっかりと差し込まれていないと、熱湯や高温のパ-ウダ-飲料が不意に流れ出ることがあります。
- ミサ-ホ-スはしっかりと差し込んでください。

- * 操作パ-ルを上-に動かす
 - * コンビ-供給口のミサ-ホ-スを引き、グリップ-を持ってミサ-カップ-を上-にあげます
- これでミサ-の羽根車が見えます。

毎日

- * ミサ-カップ-を取り外す
- * ミサ-カップ-を4つの部品に分解する
- * 部品は流水で入念に洗浄する

必要に応じて(毎週)

- * 5 mlのWMF特製ク-ナ-または専用のク-ング タブレットを500 mlの温水に混ぜます
- * 4つの部品はすべて少なくとも4時間はク-ング液に浸す
- * 4時間経過後、再度流水で入念にすすぐ
- * パ-ウダ-ホッパ-を外し、ミサ-カップ-の投入口をク-入またはブラシでク-ングする
- * 全ての部品を完全に乾かす [1]



組み立てにあたっては、全ての開口部が必ず同じ方向を向くようにしてください。

- * ミサ-ホイ-ル [2] を図のように配置します
- 挿入後に緑色の側面が見えます。
- * ミサ-カップ-にミサ-ホ-スを差し込む
 - * ガツとロックされるように、ミサ-カップ-を再度設置する
 - * ミサ-ホ-スをコ-ビ-供給口に挿入

注意

安全性についての章を参照
▷7A-ジ以降

説明
▷メインメニュー
▷カスターケア
▷説明



5.6.9 コーヒー豆ホッパーのクリーニング

コーヒー豆ホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。推奨：毎月1回。



怪我のおそれ

- 長い髪の毛はグライダ-に巻き込まれ、コーヒーマシンに引き込まれるおそれがあります。
- 髪の毛は、必ずヘアネットを被って保護してください。

△ 注意



指などを挟むおそれ/ 怪我のおそれあり



- コーヒーマシンの可動部で指や手を怪我するおそれがあります。
- コーヒーグライダ-や抽出装置の開口部に触れる場合、その前に必ずコーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを外してください。

△ 注意



- コーヒー豆ホッパーは絶対に食器洗い機で洗淨しないでください。

重要

- * 操作パネルを上にかす
- 操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * 信号音が鳴るまでオン/オフボタンを短く押す
- * 主電源からプラグを抜く
- * 豆ホッパーのロックを180°回し、開く
- * コーヒー豆ホッパーを持ち上げて外す
- * コーヒー豆ホッパーを完全に空にし、軽く湿らせた布巾で丁寧に汚れをふき取る



ロックを180°回す



- * コーヒー豆ホッパーを完全に乾かす
- * コーヒー豆ホッパーに豆を投入して元通り装着
- * 豆ホッパーのロックを180°回し、閉じる

5.6.10 パウダーホッパーのクリーニング

パウダーホッパーは必要に応じて定期的にクリーニングしてください。

推奨: 毎月1回。

使用するパウダーに応じて、頻繁に清掃します。

- * 操作パネルを上に動かす
操作パネルの裏、右側にオン/オフスイッチがあります。
- * 信号音が鳴るまでオン/オフボタンを短く押す
- * 主電源からプラグを抜く
- * パウダーホッパーのロックを180°回し、開く
- * パウダーホッパーを後に傾け、持ち上げて外す
- * パウダーホッパーを完全に空にする
- * 前後のエコナットを外す
- * ポットホルダーのスクリューを引き出す
- * パウダーホッパーに付着した汚れを軽く湿らせた布巾で丁寧にふき取る
- * ポットホルダーのスクリューの個々の部品を入念にクリーニング
- * パウダーホッパーと個々の部品を完全に乾燥させる
- * ポットホルダーのスクリューを再び組み立てて設置し、エコナットを締める



ポットホルダーと個々の部品。ポットホルダーのスクリュー

! 排出口が正しい位置にきていることを確認してください。

重要

- * パウダーホッパーにパウダーを充填して元通り装着
- * ロックを180°回転させて、再度閉めます

6 HACCPクリーニングコンセプト

飲食店経営者には、来店するお客様が健康被害のおそれにさらされないことがないように、提供する食品への注意が法的に義務付けられています。危険の認識・判定のため、HACCP (Hazard Analysis Critical Control Points) クリーニングコンセプトの導入が必要になります。このマシンの使用場所でリスク分析を行うようにしてください。分析の目的は、食品衛生面で危険な個所の確認と解消にあります。そのためにはモニター・検査工程を定め、実施する必要があります。設置状態が適切で、加タマケアやメンテナンス、クリーニングが正しく行われている場合、WMFコーヒーマシンは上記の条件を満たした状態となっています。コーヒーマシンの加タマケアとクリーニングが適正になされていない場合には、供給されるミルク飲料は食品衛生の面から危険があります。

HACCPクリーニングコンセプトの要件を満たすために、以下の項目をお守りください。

ミルクシステムを毎日消毒

- 加タマケアの章にあるミルクシステムのクリーニングについて
の指示に従ってください。これにより、業務開始時にシステムに細菌がない状態を確保できます。



インフォメーションパッド からは前回のクリーニングの
プログラムを呼び出すことができます。
USBパッド から、HACCPジャーナルをエクスポートで
きます。

「1997年8月5日 食品衛生指令」

日常のクリーニング評価に当社の
HACCPクリーニングコンセプトをご活用
ください。

HACCPエクスポート
▷82° -ジ

WMFが認可した洗剤のみを使用
してください。

加タマケアの章を参照
▷83A° -ジ以降

ヒント

業務開始時は常に新たに開封した冷蔵ミルクを使用

- 未開封のロングライフミルクは通常細菌は存在しません。業務開始にあたっては常に冷蔵しておいたミルクパックを新しく開けてお使いください。
- ミルクパックを開封する時には衛生面に特に注意してください。汚れた手やツールに付着した細菌が、ミルクパックを開く際に入り込むことがあります。

推奨:

乳脂肪分1.5%のロングライフ牛乳を使用してください。

ミルクは冷蔵してください!

- 必ず冷蔵した予備の新しいミルクパックを用意しておいてください。
- ミルククーラーを使わずにマシンを使用するときは、ミルクをできるだけ早く使い切ってください。必要に応じてミルクを時々冷やしてください。
- 冷蔵していたミルクを開封後少ししか使わないときは、業務中も冷蔵してください。

営業開始時のミルク温度は約6~8℃になっていなければなりません。

設定によっては1リットルのミルクで約20杯分のカプチーノを作れます。

WMFでは様々な冷却方法を利用できます (WMF小型クーラーまたはWMFミルククーラーなど)。

HACCPクリーニング® コンセプト

月 _____ 年 _____

冷蔵されたロングライフミルクのみを使用してください。これを守らないと、微生物や細菌により健康に被害がおよぶ恐れがあります。パウダー飲料に使用するパウダーには必ず賞味期限内のものを使用してください。

クリーニング スタッフ:

1. システムクリーニングを実施
 - ▷ 取扱説明書、章「カスタマー」
- 2a. ミルクシステムをマニュアルでクリーニング
 - ベネックミルクは毎日、アラゲ & クリークおよびイージー-ミルは毎週
- 2b. 毎日のミナーリス
 - ▷ 取扱説明書、章「カスタマー」
- 3a. 作動開始から4時間経過したら、ミルクシステムのクリーニングとコック供給口の交換を実施 (特に供給数が少ない場合や、ミルクが冷蔵されていない場合、フォームのリスが汚れになっている場合は必須)
- 3b. 毎週のミナークリーニング および製品ケア (豆パウダー)
 - ▷ 取扱説明書、章「カスタマー」
4. 一般的なマシンのクリーニング

日	クリーニング スタッフ				署名
	1	2	3	4	
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
16.					

日	クリーニング スタッフ				署名
	1	2	3	4	
17.					
18.					
19.					
20.					
21.					
22.					
23.					
24.					
25.					
26.					
27.					
28.					
29.					
30.					
31.					

7 メンテナンスと加付除去

本コーヒーマシンは業務用のため、定期的にメンテナンスと加付除去作業が必要となりますのでご注意ください。

メンテナンスの時期はコーヒーマシンの使用期間により決まり、パネルに通知されます。WMF サービスによるメンテナンスでは、同時に抽出装置の加付除去も実施されます。

コーヒーマシンは通知表示後も使用できますが、コーヒーマシンの機能異常や二次的な損傷を防ぐためにもお客様自ら早めにメンテナンスを行うか、メンテナンス作業の実施を依頼してください。

7.1 メンテナンス

パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外は行わないでください。
メンテナンスレベルは以下のようになっています。

- 加付抜きは、使用者/管理責任者が自ら行うことができます。
- パネル上に通知が表示されたあとのメンテナンスは、WMF サービスまたは必要なトレーニングを受けた作業員以外は行わないでください。

サービス・メンテナンス通知
▷メッセージと注意事項
116ページ

加付除去
▷ソフトウェア ▷加付マーク
▷加付除去
96ページ

サービス・メンテナンス通知
▷メッセージと注意事項
116ページ

7.2 WMF サービス

WMF サービスにつきましては、お近くの修理センターが不明な場合は下記にお問い合わせください。

WMF GmbH
WMF Platz 1
D-73312 Geislingen (Steige)

重要!

メンテナンス、修理などにつきましてはお近くのWMF サービスまでお問い合わせください。電話番号はユーザーマニュアルに貼ったラベルと納品書に記載されています。



8 メッセージと注意事項

8.1 操作上の通知

コーヒー豆を補充

- * コーヒー豆ホッパーを補充(表示参照)
- * 確認:
 - コーヒー豆ホッパーのロックが解除されていますか?
▷[ガスター](#)
 - コーヒー豆がスムーズに落ちません。
- * 大きめのスプーンでかき回して  で確定する

給水してください

- * 水道の栓を開き、確定する

コーヒー加受けを空にする

- * コーヒー加受けを空にする

コーヒー加受けがありません

- * コーヒー加受けを再び正しく設置する

浄水フィルタを交換

- * 浄水フィルタを交換
浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。
- * 必要な場合、WMF サービスに連絡

WMF サービスに連絡

エラー番号の表示

エラー通知と不具合
▷[117ページ](#)

サービスメッセージ

- この通知がパネルに表示されると、サービス・メンテナンスが必要です。
- * WMF サービスに連絡

サービス通知は注意事項です。通常、コーヒーマシンはそのままお使いいただけます。

8.2 エラー通知と不具合

エラー通知が表示されたときや不具合発生時の基本的な手順は次の通りです。

- * コーヒーマシンのスイッチを切り、数秒後もう一度スイッチを入れる
- * エラーが発生したときの操作を再試行

多くの場合、これによって不具合が解消され、正常に作動させることができます。

この操作で解消できなかった場合：エラー表示またはエラー番号をもとに以下の表を参照して対応してください。

それでも解消できないか表示されたエラーが記載されていない場合は、WMF サービスにご連絡ください。

通知の中には個別機能が停止するものがあります。この場合、飲料ボタンの照明が消えます。飲料ボタンが点灯している飲料では引き続き供給が可能です。

WMF 1500 S+には診断プログラムが装備されています。発生したエラーはパネル上に表示されます。表示されるエラー通知は、原因の一つに主電源の異常も考えられます。

現在エラーが発生しているか、管理責任者への注意事項がある場合、パッド  が表示されます。

- *  をタッチする
エラー通知およびエラー番号が表示されます。



コーヒーマシンはオン/オフボタンを押してから約1秒後に反応し、机になります。
不具合の解消のため(ソフトウェアのリリースなど)、
オン/オフボタンを長押しして制御システムの電源を
切ってください。次に、コーヒーマシンの電源を入
れます。

注意事項

エラー番号	エラーの内容	対応
6	抽出装置で流れがブロック/抽出装置がスムーズに動作しない	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切ります * 抽出装置のクリーニング ▷カスタマーケア▷抽出装置のクリーニング、102ページ
88	ポイラー： 温度過昇	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、冷めてから再びスイッチを入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
89	ポイラー： 加熱時間エラー	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
161	70-エラー： 抽出用熱湯	<p>以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 抽出装置のクリーニング ▷カスタマーケア▷抽出装置のクリーニング、102ページ * グラインドの挽き目を粗く設定 ▷ソフトウェア▷システム▷挽き目設定、74ページ * 品質レベルを下げる ▷設定▷レベル、49ページ * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
162	70-エラー： クリーニング時	<p>以下の各ステップ間では、毎回コーヒーマシンのスイッチを切ってから、再び入れてください。エラーが解消されない場合、次のステップを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 抽出装置のクリーニング ▷カスタマーケア▷抽出装置のクリーニング、102ページ * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡

エラー番号	エラーの内容	対応
186	スチムホ [®] エラー: 水位	供給が一時的にロックされています。 * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * 水道の給水栓が開いているかを確認します
188	加熱エラー	* コーヒーマシンのスイッチを切り、主電源からプラグを抜く * WMF サービスに連絡
189	スチムホ [®] エラー: 加熱時間エラー	* コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9083	クーラー温度が冷凍 レベルになっています	* クーラー温度の設定が低すぎないか確認
9507	ウォーター: 水圧不足	* 給水栓を開き、水タンクに水を補充する * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
9678 9679 9619	右側のグライндаー がロックされ ている 左側のグライндаー がロックされ ている	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>* コーヒーマシンのスイッチを切ります</p> <p>* 主電源からプラグを抜く</p> <p>* 豆ホッパーを取り出します</p> <p>* 必ずホッパー用マルチツールを使ってグライндаーディスクを反時計回りに回します (2本のピンがグライндаーのスロットに正しく差し込まれるようにすること)</p> <p><small>▷ カスタマーケア ▷ コーヒー豆ホッパーのクリーニング、110ページ</small></p> <p>* ホッパーを再びセットします</p> <p>* コーヒーマシンのスイッチを入れる</p> <p>よく起こることとして:</p> <p>* グラインドの挽き目を一段階粗めに設定</p> <p><small>▷ ソフトウェア ▷ システム ▷ 挽き目設定、74ページ</small></p> </div> <div style="flex: 0.2; text-align: center;">  </div> </div>

8.3 Iラ-通知なしの不具合

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> 熱湯が供給されないのにコーヒーが受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * 熱湯ノズルをクリーニング * WMF サービスに連絡 (コーヒーの供給は可能)
<ul style="list-style-type: none"> チャコが供給されないのにコーヒーが受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * チャコの供給は使用しないこと * WMF サービスに連絡 (コーヒーの供給は可能)
<ul style="list-style-type: none"> チャコポーションの詰まり、チャコ飲料は水のみ供給される 	<ul style="list-style-type: none"> * ポーションをクリーニング ▷カスタマーケア▷パウダーホッパーのクリーニング、111ページ * パウダーホッパーを空にする * スクリューを手で回して、パウダーを完全に排出 * 必要であれば水洗いする * 全ての部品を完全に乾かす
<ul style="list-style-type: none"> チャコ供給中に大きな音 	<ul style="list-style-type: none"> * ミキサーカップを取り外す * ミキサーホイルが正しく配置されているかを点検します ▷カスタマーケア▷ミキサーのクリーニング、109ページ * 必要に応じてミキサーホイルを交換します
<ul style="list-style-type: none"> コーヒーの出方が左右で異なる 	<ul style="list-style-type: none"> * コレ供給口のクリーニング ▷カスタマーケア▷ミルクシステムの清掃の概要、94ページ
<ul style="list-style-type: none"> ミルクが容器に入っているのにミルクフォーム/ミルクが出ない 	<ul style="list-style-type: none"> * ミルクホースが折れたり、押しつぶされていないか確認 * ミルクホースを正しく配置 * ベーシックミルク/イージ-ミルク: コレ供給口をクリーニング * デイミックミルク: コレ供給口を手作業でクリーニング * ミルクを補充 * デイミックミルク: ミルクを補充し、カスタマーケアメニュー上で、「ミルクシステム補充」を選択 ▷ソフトウェア▷カスタマーケア▷ミルクシステム補充、45ページ * ベーシックミルク: ミルクノズルが詰まっていないか確認してください ▷カスタマーケア▷ミルクシステムの清掃の概要、94ページ * ミルクレーサーが凍結していないか確認

不具合図	対応		
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>ベ-シックミルク * ミルクノズルを交換 適切なミルクノズルをコンビ 供給口で使用します。</p> <table border="1" data-bbox="456 320 1031 355"> <tr> <td>ミルクノズル</td> <td>3 kW</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> • とても冷たいミルク (8℃以下) グリーン • 冷蔵されているミルク (8～16℃) ホワイト • 冷蔵されていないミルク (16℃を超過) キャメル色 <p>* コンビ 供給口をクリーニング <small>▷カスタマーケア▷ミルクシステムをマニュアルでクリーニング、106ページ</small></p> <p>エアが解消されない場合 * アクセサリの他のミルクノズルを使用する</p>	ミルクノズル	3 kW
ミルクノズル	3 kW		
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォームがきれいに仕上がらない • 温度が低すぎるか、高すぎる 	<p>ダイミックミルク * 品質チェックを実施する この機能は、有資格のスクリーニングを受けた作業員のみ に操作可能です。必要に応じてサービス担当者にご 連絡ください。</p> <p>イージー-ミルク * 設定された温度がミルクの温度と一致するか確認 * コンビ 供給口のクリーニング <small>▷カスタマーケア▷ミルクシステムをマニュアルでクリーニング、106ページ</small></p>		
<ul style="list-style-type: none"> • AutoClean プラグアンドクリーン アダプターが差し込み ないしロックしない 	<p>* プラグアンドクリーンソケットのディスクの配置を点検して ください ディスクがゆがんでいる可能性があります。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> • ミルクフォーム供給時にミルクが飛び散る • ミルクが熱くなりすぎる 	<p>* ミルクシステムがクリーニングされているかを確認 * ミルクシステムをクリーニング <small>▷カスタマーケア▷ミルクシステムの清掃の概要、94ページ</small></p> <p>* 使用しているミルクが十分冷蔵されているかを確認する</p>		

不具合図	対応
<ul style="list-style-type: none"> • パウダー飲料供給なし 	<ul style="list-style-type: none"> * ミキサカップをクリーニング * ホースが折れていないかチェック * クリーニングとリンスを必要なら毎日でも実施 ▷カスターケア▷ミキサのクリーニング、109ページ * パウダー量を減らす * 水の量を増やす
<ul style="list-style-type: none"> • ポンプが連続作動し、コーヒー受けに水がたまる 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒーマシンのスイッチを切り、再び入れる * エラーが解消されない場合はWMF サービスに連絡
<ul style="list-style-type: none"> • チョコ製品容器をセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * ポーションにあるポーションのスクリー用駆動系を手で時計回りに少し回す * チョコ製品容器が誤ってロックされていないか確認
<ul style="list-style-type: none"> • コーヒー豆ホッパーをセットできない 	<ul style="list-style-type: none"> * コーヒー豆ホッパーが誤ってロックされていないか確認 * コーヒー豆がグラインダーとホッパーの間に挟まれているかを点検します

9 安全性と保証

9.1 コーヒーマシンに対する危険



取扱説明書を確認

注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
設置・使用条件を守ってください。

設置場所

- 設置場所には必ず乾燥した水の飛び散らない場所を選んでください。
- コーヒーマシンからは常に少量の凝縮水や水、蒸気が流れ出る可能性があります。
 - > コーヒーマシンを屋外で使用しないでください。
 - > コーヒーマシンは水しぶきがかからない場所に設置してください。
 - > 設置面への損傷を防ぐため、コーヒーマシンは必ず防水性があり、熱に強い敷物の上に設置してください。

コーヒークラインター

- 異物が混入するとコーヒークラインターが破損するおそれがあります。このような損傷は保証対象外となります。
 - > 従って、コーヒー豆ホッパーに異物が混入しないように注意してください。

重要

保証の章に注意
▷127°F (-3) 以降
設置・使用条件
▷17°F (-3) 以降

コーヒーマシンの技術的トラブルや損傷を避けるために、以下の注意事項に従ってください：

- 5 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF 浄水フィルターをご使用ください。WMFサービスが推奨する浄水フィルターを使用しないと、コーヒーマシンを破損するおそれがあります (カルキ付着など)。
- 安全を確保するために、業務終了時には必ず主電源スイッチを切るか電源プラグを抜いてください。水道水接続がある機械の場合、水道のメインコックは閉じていなければなりません。
- 損傷を防ぐために、以下の対策を推奨します：
 - 水道に適切な水検出器を取り付ける
 - 煙感知器の取り付け
- 休みの (数日/数週間) 後でマシンの運転開始を再度行う前に、クリーニングプログラムを2回以上実行することを推奨します。

システムクリーニング
クリーニングプログラム
86ページ

9.2 ガイドライン

製造者: WMF GmbH, 73312 Geislingen (Germany)

本機はMRL (MD) 指令2006/42/EC、EMC 指令2014/30/EU および RoHS 2011/65/EU に関連する全ての指令に準拠しています。

上述の製造者はこのマシンがこれらのガイドラインに関連する全ての指令を遵守していることを宣言します。当社の許可なしに装置に変更や改造を加えると、この解説は有効性を失うものとなります。技術関連資料の作成: WMF GmbH。

本機には適合解説書の原本が同梱されています。

本機にはCEマークが付与されています。

本機は現行のドイツ食品および飼料法記録 (LFGB)、ドイツ消費財条例 (BedGgstV)、EU10/2011、EC規則1935/2004に準拠しています。

適正な目的で使用する場合、本機による健康被害のおそれや、不当な危険はありません。

使用される材料および原材料は、ドイツ消費財条例および欧州委員会 (EU) 規則No.10/2011に準拠しています。

欧州以外の国ではその国で指定される条件が適用されます。

本機は電気電子機械廃棄物指令 (WEEE 2012/19/EU) により、一般廃棄物としての廃棄が禁止されています。

EC規則No. 1935/2004に準拠したトレーサビリティを確立し、EC規則No. 2023/2006に準拠した製造管理および品質管理に関する基準による製造を確実に行うことを、当社は保証いたします。



廃棄の際には、WMF サービスまでお問合せください。

連絡先
▷115⁺ -37

9.3 管理責任者の義務

マシンの管理責任者は、WMF のサービス技術者、WMF の依頼を受けた技術者、またはその他の権限を有する技術者による定期的なメンテナンスと、安全に関する装置の点検を手配しなければなりません。

サービス領域へのアクセスが認められているのは、特に安全性や衛生面に関する本機の知識・経験が豊富なスタッフのみとなっています。

コーヒーマシンは、支障なくカスタマーケアやメンテナンスを行える場所に、管理責任者が設置してください。

事務所や厨房での使用など、セルフサービスでコーヒーマシンをご使用になる場合は、操作方法を心得たスタッフがコーヒーマシンを管理しなければなりません。トレーニングを受けたスタッフがカスタマーケア措置を守っていることを確認し、利用上の質問に対応するようにしてください。

マシンを使用する施設の電気設備と運転設備が使用地域の規定に準拠していることを、管理責任者は確認しなければなりません(ドイツ法的損害保険組合規定3など)。コーヒーマシンを安全にお使いいただくためには、特にセーフティバルブと圧力容器の定期的な点検が必要です。

これらの措置はWMFサービス、またはWMFが権限を与えたサービス技術者によって、メンテナンス作業の一環として行なわれます。

マシンのクリーニングには、必ずWMFの指定によるコーヒーマシンのWMF特殊洗剤(タブレット)とミルクシステム用のWMF特殊洗剤(液体)をご使用ください。

マシンのカキ除去は WMF が提供する WMF 特殊カキ除去剤のみ使用して行うようにしてください。

メンテナンスのサイクルと頻度につきましては製造者が定める内容(▷メンテナンス)に従ってください。

クリーニング 頻度の概要

▷85ℓ -ジ

HACCP

▷112ℓ -ジ

WMF特殊カキ除去剤

▷アクセサリとスプレッド

132ℓ -ジ

WMF 特殊カキ除去剤

▷アクセサリとスプレッド

132ℓ -ジ

9.4 保証請求



取扱説明書を確認

- ・ 注意事項に従わずに起きた損傷については、保証対象外となります。
- > 設置・使用条件を守ってください。

重要

設置・使用条件
▷17ℓ -ジ以降

購入者への保証の有無と、購入者への保証がある場合の保証条件は、購入者と販売者の間の取り決めによって定められるものとします。本取扱説明書の指示を無視して損傷が起きた場合は、保証の対象とはなりません。

保証対象外となるのは：

- ・ 日常的な使用で消耗する部品全般。パッキン、ミサー、抽出装置などもこれに含まれます。
- ・ 天候の影響、ホイターの加圧堆積、化学的/物理的/電気化学的/電気的影響による不具合。
- ・ 現場の水の硬度により浄水フィルタの使用が必要であるにもかかわらず、浄水フィルタを使用しないで不具合に至った場合。
- ・ 本機の取り扱い、メンテナンス、カスタマーケアに関する規定（取扱説明書やメンテナンス指示など）に従わなかったことにより生じた不具合。
- ・ WMF純正スペアパーツを使用しない場合や、マシンが購入者が第三者によって不適切に取り付けられている場合、あるいは不適切または十分な注意をとらなわなない取り扱いの結果として生じた不具合。
- ・ 購入者、または第三者によるWMFの許可を伴わない不適当なマシン修理、改造、調整の結果生じた不具合。
- ・ 取扱説明書に記述された用途以外の使い方をした結果生じた不具合。

重要

メンテナンス
▷11ℓ -ジ以降

付録:テクニカルデータ

コーヒーマシンのテクニカルデータ

外寸	幅325 mm 高さ716 mm (ロック式コーヒー豆ミルホッパー込み) 奥行590 mm
コーヒー豆ホッパー	それぞれ約1,100 g ⁽¹⁾ 中央コーヒー豆ホッパーは約700 g ⁽¹⁾
パウダーホッパー (オプション)	約2,000 g ⁽²⁾
空重量	32~36 kg (装備により異なる)
水道	メインコックとフィルター (メッシュ幅0.08 mm) 付き3/8インチのホース接続 (現場側で用意) ⁽³⁾ 2 L/分の時の最小水圧0.2 MPa (2 bar)。 最高水圧0.6 MPa (6 bar)。 重要! 現地の水圧が0.6 MPa (6 bar) を超える場合には、最大0.6 MPa (6 bar) に設定されるよう、必ず減圧弁をあらかじめ作動させる必要があります。 最大供給温度 35 °C。コーヒーマシン、直結給水接続用キットまたは新しい浄水フィルターと一緒に納品されるホースセットを使用する必要があります。使い古したホースは再使用しないでください。
水質	5 °dKH (炭酸硬度) 以上の飲料水向けには、WMF浄水フィルターをご使用ください。
排水パイプ (オプション)	ホースはDN 19以上、最低傾斜は2 cm/m
NNを超える高さでの使用	<2,000 m

予告なく仕様変更することがあります。

⁽¹⁾ カップ容量はコーヒー豆のサイズによって変化します。

⁽²⁾ オプションのパウダーホッパー装着時のみ。カップ容量は使用するパウダーの種類によって変化します。

⁽³⁾ コーヒーマシンの給水接続には本規格 (IEC 60335-2-75) が適用されています。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしなくてはなりません。

定格消費電力	1.5 kW	3.0 kW
電圧	100 V、50/60 Hz、 (1/N/PE)	200 V、50/60 Hz、 (2/PE)
照明	LED	
保護等級	IP X0	
保護等級	等級	
定格圧力	ホース 1.6 MPa (16 bar) スチームホース 0.5 MPa (5 bar)	
連続騒音レベル(Lpa)	<70 dB(A) ⁽⁴⁾	
周辺温度	+5 °C ~ +35°C (寒いときは凍結防止のため水抜き)。	
最高湿度	相対湿度80%、結露なし。 屋外での使用は禁止。	
設置面/水しづき	本機は必ず水平で安定した、防水性と耐熱性を備えた敷物の上に設置すること。 本機洗浄に放水は使用しないこと。マシンは水しづきがかからない場所に設置してください。水ホース、スチーム噴射器、スチームクリーナー等で散布・クリーニングを行う場所には、本機を設置しないこと。	

予告なく仕様変更することがあります。

⁽⁴⁾ コーヒーマシン操作スタッフ周辺の作業環境におけるA特性音圧レベルLpa (スロー) と Lpa (インパルス) は、作動モードにかかわらず常に70dB (A) 未満です。

<p>取り付け時の間隔</p>	<p>機能上、およびサービス・安全上の理由から、マシンの側面は壁もしくは非WMF製コンポネントから50 mm以上離して設置してください。背面では50 mm以上の安全距離が必要です。 コーヒーマシンの前に800 mmの最小作業スペースを設けることを推奨します。製品本体の上に200 mm以上の空間を設けることを推奨します。床面からマシン設置面までは最低850 mmの高さを確保すること。コーヒーマシンの各種接続をマシン下からカウンターに通す場合、ライン敷設に必要なスペースに注意してください。敷設するラインによってマシン下の利用可能な空間が制限される場合があります。</p>
<p>浄水フィルタの取り付け寸法</p>	<p>浄水フィルタの取扱説明書を参照してください。</p>

予告なく仕様変更することがあります。

上記の電気接続基準と引用されている規格は、EU各国にてコーヒーマシンの接続規格として適用されます。ご使用になる地域で定められた追加の規定がある場合には、これに従ってください。EU圏外では、コーヒーマシンを市場で販売する業者が、引用されている規格の遵守をチェックしてはなりません。

現場の電気設備は IEC 60364 規格に準拠して国が指定する規則に従い配備され、また、機銘板に記載される仕様情報に対応していなければなりません。

本機のそばの、支障なくアクセスできる場所に、単相電源の場合 Schuko プラグ ソケットが使用国の基準の単相ソケットを、三相電源の場合は、DIN EN 50310

VDE 0800-2-310 に準拠した 5 極 CEE/CEKON ソケットが使用国基準の多極ソケットを用意してください。プラグソケットはお客様側でご用意ください。主電源ケーブルが高温になった部品に接触しないようにお気をつけください。本機の主電源ケーブルが損傷した場合は、危険防止のために WMF サービスエンジニアが同等の資格を有するスタッフが交換を行ってください。

会計システムと接続して使用する場合、機械間の等電位化電流によって生じる可能性のあるケーブルのシールド線の不具合を防ぐため、追加の等電位化処理を行うようにしてください (DIN EN 50310 VDE 0800-2-310 を参照)。

マシンを大型のキッチンに設置する場合には、接地・等電位ボンディング用導体をマシンに取り付けることを推奨します。アース端子 (等電位ボンディング) の取り付けは、必要に応じて WMF サービスエンジニアが行います。

付録:アクセサリとスハ° アハ° ツ

数量	単位	名称	注文番号	装備
チョコのコンビ° 供給口一式				
1	個	コンビ° 供給口、一式	33 2867 5200	ハ° -シックミルク
1	個	コンビ° 供給口、一式	33 2867 5300	ハ° -シックミルク/ イ°ジ° -ミルク
1	メートル	ミルクホース	00 0048 4948	全て
1	個	ミルクホース用スリーブ°	33 2180 5000	ハ° -シックミルク/ イ°ジ° -ミルク
1	個	ミルクホース用スプ° リング° 28	33 0190 3000	ハ° -シックミルク/ イ°ジ° -ミルク
0.25	メートル	ミキサーホース	00 0048 0064	チョコ
1	個	ミキサーホース用スプ° リング°	33 2292 6000	チョコ
1	個	ミキサーカップ°	33 2895 4000	チョコ
1	個	ミキサーホイール	33 2895 5000	チョコ
1	個	非常に冷たいミルク用のミルクノズル° (緑)	33 2317 8000	ハ° -シックミルク
1	個	冷蔵したミルク用のミルクノズル° (白)	33 9516 9000	ハ° -シックミルク
1	個	冷蔵していないミルク用のミルクノズル° (キャラメル)	33 9521 3000	ハ° -シックミルク
1	個	ミルクノズル° (ハ° -ジ° ユ)	33 2046 0100	ハ° -シックミルク
コーヒーカス受け				
1	個	コーヒーカス受け	33 2634 1200	全て
1	個	コーヒーカス受けのストレーナー	33 2633 9000	全て
1	個	コーヒーカス受け (カウンターからのカス)	33 2634 1300	水道直結
1	個	ストレーナー (カウンターからのカス)	33 2633 9100	水道直結
水道水接続、排水				
1	個	水道水接続での接続ホース	33 2292 1000	全て
1	個	排水ホース用エルボ° -	33 2165 8000	全て
1.5	メートル	排水ホース	00 0048 0042	全て
アクセサリ/ツール				
1	個	マルチツール	33 2408 4000	全て

数量	単位	名称	注文番号	装備
コーヒ-豆ホッパ° -一式				
1	個	豆ホッパ° -のふた、中央	33 2887 3099	全て
1	個	豆ホッパ° -のふた、右/左	33 2925 5099	全て
1	個	豆ホッパ° -, 左	33 2913 2099	全て
1	個	豆ホッパ° -, 右	33 2911 8099	全て
1	個	豆ホッパ° -, 中央	33 2946 8099	全て
1	個	コーヒ-豆ホッパ° -/製品ホッパ° -の識別ラベル	33 2624 7000	全て
製品ホッパ° -				
1	個	ホッパ° -のふた、ロック可能、フル	33 2925 5000	フコ
1	個	ホッパ° -のふた、大、シングル、フル	33 2911 7000	フコ
1	個	ツインホッパ° -	33 2911 9000	フコ
1	個	アラック・アンド・クリーンアラック・アンド・クリーンアラック	33 2427 5000	全て
抽出装置				
1	個	抽出装置	33 2893 0399	全て
1	個	リング抽出ユニット	33 7006 5190	全て
ドリッパー/トレイ/ドリッパーグリッド				
1	個	スチ-ムジ-ットなしドリッパー	33 2633 7000	スチ-ムジ-ットなし
1	個	スチ-ムジ-ット付きドリッパー	33 2633 7100	スチ-ムジ-ット付き
1	個	スチ-ムジ-ットなしドリッパーグリッド	33 2633 8000	スチ-ムジ-ットなし
1	個	スチ-ムジ-ット付きドリッパーグリッド	33 2633 8100	スチ-ムジ-ット付き
水タンク				
1	個	水タンク	33 2886 7000	全て
1	個	水タンクのフタ	33 2635 6000	全て
1	個	水タンクのシーブ	33 7006 2608	全て

数量	単位	名称	注文番号	装備
かき用フィルター/浄水フィルター				
1	個	浄水フィルター-AquaBasic M	03 9533 1000	水道直結
1	個	フィルターヘッド [®] (WMF AquaHead)	33 9532 0000	水道直結
1	個	WMF コネクションセット AquaHead	33 9532 1000	水道直結
1	個	水タンク内の浄水フィルターのアダプター	33 2327 1000	水タンク
1	パック	水タンク内の浄水フィルター用スヘアカートリッジ [®] (VE 4個)	33 2332 2000	水タンク
資料/取扱説明書				
1	個	資料一式: 取扱説明書 WMF 1500 S+	33 4186 1060	全て
WMFカスタマーケアプログラム用の注文番号				
1	ボトル	ミルクフォーム用のWMF特殊洗剤	33 0683 6000	全て
1	パック	クリーニングタブレット(100個)	33 2332 4000	全て
1	個	パイプクリナー	33 0350 0000	全て
1	個	クリーニングブラシ	33 1521 9000	全て
1	チューブ	WMF「パッキン用ケリース」Molykote	33 2179 9000	全て
1	個	ケアキット	33 2888 2000	全て
1	パック	クリーニングタブレット	33 2622 0000	イージーミルク/ ダイミックスミルク
1	個	クリーニング容器	33 2593 6000	イージーミルク/ ダイミックスミルク
1	個	クリーニング容器のフタ	33 2593 7000	イージーミルク/ ダイミックスミルク

索引

- 2種類目のコーヒー 42
- アケサリとスぺアパーツ 132
- アニメーション 45
- イベントの表示 71
- インフォメーション 61
- エラーコード 68, 73, 80
- エラー通知と不具合 117
- エラー通知なしの不具合 120
- エラー表示 57
- オプションのフィールド 29
- オン/オフスイッチ 21
- ガイドライン 125
- カンタ 62
- カンタのエクスポー 81
- カスタマー 43, 61, 83
- カップ・フロント・ケール 27
- カップウォーマー 21, 32
- カップサイズ 57
- カップサイズ調整 29, 41
- カップの高さを手動で調整 53
- カップ検出 76
- カップ検出(オプション) 33
- カップ容量 47, 57
- カップ容量 S/M/L 47
- 加熱除去 61, 96, 98, 100
- 加熱除去用容器 21
- クイック洗浄 (AutoClean) 90
- クリーニング PIN 64
- クリーニング タレットを補充する (AutoClean) 95
- クリーニングプログラム 86
- クリーニング後にミルクシステムを準備 45
- クリーニング頻度 85
- クリーニング 44
- コーヒー受け 21, 35
- コーヒー受けのクリーニング 102
- コーヒーが落とし (オプション) 35
- コーヒーライントラックを選択 52
- コーヒークリーニング 顆粒 95
- コーヒーの品質 51
- コーヒーマシンに対する危険 123
- コーヒーマシンのスイッチを入れる 26
- コーヒーマシンのテクニカルデータ 128
- コーヒーマシンの各部名称 20
- コーヒー豆ホッパー 21
- コーヒー豆ホッパーのクリーニング 110
- コーヒー豆ホッパー/パウダーホッパー 33
- コーヒー粉の量 50
- コンロ供給口を手作業でクリーニング 106
- サービスマン 61
- サイズ設定 S/M/L 77
- サイド照明 21
- サータイム 68
- システム 69
- システムクリーニング 43, 86, 89, 90
- シロップ (オプション) 75
- スイッチ オフ 37
- スイッチ オフ リリース 45
- スタート・ストップ 48
- スタート・ストップ プリプログラム 48
- スチームジェット 21, 56
- スチームジェットパッド 21, 32, 40
- スチーム/スチーム 21
- スチームタンク 42
- スマートモーター 79
- セルフサービス 55
- セルフサービスモード 55
- ソフトウェア 38
- タイマー 61, 65
- タイマーの入る時間を設定 66
- タイマー削除 66
- タイマー 日別概要 66
- タイマー予定表とタイマーの設定 65
- タッチパッドのキャリブレーション 71
- タレット洗浄剤投入口 21
- データのパックアップ 82
- データをロードする 82
- ディスプレイと照明 70
- ディスプレイ照度減少 71
- データ 42
- データ係数 59
- テキストと画像 52
- テクニカルデータ 128
- デジタルソリューション 79
- ドリッピングトレセンサ 36
- ドリッピングトレのクリーニング 105
- ドリッピングトレイ 36
- パウダーホッパー (オプション) 21
- パウダーホッパーのクリーニング 111
- パッドの照度 71
- パッドの背景 71
- パッド上の通知 39
- パッドパッド 21, 55
- パッドパッド - コーヒーの濃さ 41
- ファームウェアの更新 82

索引

- フィル容量 73
- フォーマーのリス 92
- フォーマーのリス (ダ イミックミルク) 92
- プ ラグ アンド クリーン ソケットを洗浄する (AutoClean) 108
- フリーフロー 48
- プ ログ レス ディス プレイ 70
- プ ロトコル 61
- ペ ーシックスチーム (オプ ション) 30
- ボ ストレクション 58
- ボ タンの入れ替え 54
- ボ タンレイアウト 58
- ボ タンレイアウト (タイマー) 67
- ホットリスバ ッド 21, 40, 56
- ホッパ ーロック 21
- マニュアル投入口 21, 34
- ミキサーのクリーニング 109
- ミキサーリス 43, 93
- ミルクシステム クリーナー 95
- ミルクシステムクリーニング 43, 44, 91
- ミルクシステムの清掃の概要 94
- ミルクシステムをマニュアルでクリーニング 106
- ミルクシステム補充 41, 45, 58
- ミルク ス ール 26
- ミルクの量 50
- ミルクフォーマー内蔵型コヒ 供給口 21
- ミルクフォームの供給 26
- ミルク/ミルクフォームの供給 26
- ミルクを接続する 26
- ミルクを冷やす 27
- ミルク保管温度 69
- ミルク容器のタグ プ ター 27
- メーカーの口 60
- メインメニューの機能 39
- メッセージと注意事項 116
- メニューバ ッド 21, 56
- メニュー制御バ ッド 39
- メンテナンス 114
- メンテナンスとカルシウム除去 114
- モード 77
- リモートアクション 79
- リス 99, 101
- レピ について の備考 52
- レピ のバックアップ 46
- レピ の変更 49
- レピ の保存 81
- レピ をPDFファイルとしてセーブする 81
- レピ をロードする 46, 81
- 口 60
- 安全上の注意事項 カスタマー 83
- 安全性 7
- 安全装置 7
- 一般的な安全上の注意事項 7
- 飲料 46
- 飲料のキャンセル 28, 59
- 飲料のマークをロードする 81
- 飲料 プ レレクション 59
- 飲料ボ タン 21, 40
- 飲料ボ タンと設定用バ ン 21
- 飲料供給 28
- 飲料:文字 + 色 72
- 栄養成分情報 40, 56, 75
- 温度 73
- 会計 62
- 会計PIN 64
- 外装のクリーニング 106
- 外部会計 62
- 概要 38
- 管理責任者の義務 126
- 機能ライン 40
- 機能ライン供給可能表示 38
- 許容カップ 高さ 76
- 供給オプ ション 48
- 供給テスト 46
- 供給位置の訂正 76
- 供給可能 38
- 供給可能表示 21, 40
- 現在のレピ 構成 49
- 言語 79
- 言語 プ レ選択 57
- 言語をロードする 82
- 顧客のタグ プ ラー 78
- 工場出荷時設定で用意されている追加オプ ション 49
- 硬度 72
- 硬度の計測 72
- 仕上がり品質 51
- 使用目的 14
- 事前選択バ ッド (オプ ション) 29
- 時刻帯 68
- 時刻/日 65
- 自動カップ 検出 21
- 自動販売機 62
- 取り外し可能なド リップ トレー (ド リップ ゲリット 付き) 21
- 取り付け時の間隔 130
- 取扱説明書の記号 22
- 取扱説明書の記号とマーク 22
- 手動クリーニング 101
- 序章 20
- 照明 70
- 浄水フィルタ ー 61, 72
- 新しいPINを入力 64

水タンク 21
水タンクのクリーニング* 105
水質 128
水道 128
水道水接続によるコーヒーマシンの加熱除去 99
水量 50
設置・使用条件 17
設置面 129
設定 45
設定PIN 64
説明 45
前回の抽出 61
操作 24
操作ボタン ショーン 55
操作に関する安全上の注意事項 24
操作パネル 21
操作パネルクリーニング* (クリーンロック) 101
操作上の通知 116
操作要素 55
総硬度 73
総硬度の計測 73
抽出装置のクリーニング* 102
追加 49
追加ボタン ショーンの変更 50
追加物の削除 50
定格消費電力 129
徹底システムクリーニング* (AutoClean) 44
凍結防止/輸送準備 74
熱湯/スル 21
熱湯供給 29
挽いたコーヒでコーヒをいれる 34
挽き目設定 74
複数抽出 48
保証請求 127
保証対象外となるのは: 127
無料設定 63
用語集 23
淹れたてフィルターコーヒ - FFC (ボタン ショーン) 21, 28

A

AutoCleanクリーニング* 67

B

Bluetooth 74

F

FFC 50

FFC フィルター交換 44, 93

H

HACCPエキスポート 82

HACCPクリーニング* コンセプト 112

P

PIN権限 63

S

S-M-L機能 47, 75

U

USB 81

W

WMF サービス 115

お

お客様の口 60



シリーズ 1920 33 4186 1060 12.2021

お近くのWMF サービス:

© 2018–2021 WMF GmbH

複製、配布、翻訳など全権利を保有します。書面による許諾なしに、当マニュアルの一部または全てを何らかの形で複製、電子形式を使用して処理、複写、配布することは固く禁じられています。

デザインと製作/テキストおよび構成:

TecDoc GmbH; Geislingen, info@tecdocgmbh.de

取扱説明書 (翻訳版) 日本国内で印刷。

予告なく仕様変更することがあります。

20.12.2021



DESIGNED TO PERFORM

wmf.com